

ベビーゲート等の安全に関するアンケート調査結果

【ベビーゲート等の所有状況について】（プレアンケート）

- ベビーゲート等を使用した経験がある6歳未満の子供を持つ家庭は、約6割だった。
- 最も使われていた種類は、家屋に取付けるベビーゲートで回答者全体の41.2%であった。
- ベビーゲート等を使用しなかった理由は、「自宅に設置する場所がない」が27.8%、「危険な場所がない」が20.6%と多かった。

【ベビーゲート等の使用実態について】（以下、本調査アンケート）

- 使用台数は、1台が最も多く全体の6割を超えていた。
 - 設置場所は、台所が62.2%、階段の上が32.7%、階段の下が18.4%と多く、ベビーゲート等の設置にあたり、最も危ないと考えている場所は、台所が最も多く51.7%であった。
- <最も危ないと考えている場所に使用している（していた）ベビーゲート等について>
- ベビーゲート等の種類は、家屋に取付けるタイプのベビーゲートが最も多く、70.1%であった。
 - ベビーゲート等の取付方法は、「つっぱりタイプ」が最も高く、78.8%であり、一方「ねじどめタイプ」に関しては、6.9%と低かった。
 - 階段の上部にベビーゲート等を設置した人が選択した取付方法としては、つっぱりタイプが73.4%と最も多かった。
 - 取付方法の選択理由として最も多かったのが、「より安全に使用したいから」が43.4%、次いで「家屋に傷を付けたくないから」が41.8%であった。「家屋に傷を付けたくないから」と考えている人は、「つっぱりタイプ」を選択する傾向が強く、「より安全に使用したいから」と考える人は、「ねじどめタイプ」を選択する傾向が見られた。
 - ベビーゲート等のタイプは、扉タイプが71.0%と最も多く、次いでまたぐタイプが21.9%であった。
 - ベビーゲート等の入手方法としては、新品の購入が79.8%を占め、購入先は、赤ちゃん用品専門店が42.0%と高かった。
 - ベビーゲート等を選択した理由としては、価格が53.5%と最も多く、次いでサイズが45.1%、デザインが33.2%であった。
 - ベビーゲート等の使用開始時期は、「7か月～12か月」が49.2%と最も高く、一般的に赤ちゃんが「ずりばい」や「ハイハイ」を始める時期と一致している。また、使用を終えた時期は、まだ使用し続けているとの回答を除いた中で、2歳が34.2%と最も高く、商品の対象年齢である24か月以内で使用を終えたのは27.3%であった。
 - ベビーゲート等を使い終えた理由、または使い続けている理由として、最も多かった回答は、「子供の発達状況を見て判断」で、63.4%であった。

【ベビーゲート等を使用する際の安全について】

- ベビーゲート等という子供の安全を確保するための商品をどこで知ったかについては、「赤ちゃん用品専門店」が55.7%と最も多く、この結果は「ベビーゲート等の入手先」の回答結果と一致していた。
- ベビーゲート等が安全に役立っているかについては、92.4%が役立っていると回答した。
- 安全な製品を示すマークであるSGマークを72.0%の回答者が知っていた。
- ベビーゲート等の安全に関する改善点については、「特にない」が34.0%と最も多かった。改善点としては、ロック方法が25.1%、取付方法が22.4%などの回答があった。
- ベビーゲート等に関する事故事例について、45.0%が見聞きしたことがなかった。見聞きした経験では、「テレビ・ラジオのニュース」が20.8%と最も多く、次いで「自らの経験」が18.6%であった。
- 取扱説明書や本体に添付されていたラベルなどに記載されている「ご使用前に」「安全についての注意事項」などについて確認したか聞いたところ、「取扱説明書の必要などところだけ読んだ」が43.3%と最も多く、続いて「すべて読んだ」が24.7%であり、使用に際し、取扱説明書や注意事項に対し多くの人が目を通してしている。
- 事故防止のために注意している点は、「取り付けを確実に行う」が62.6%と最も多く、次いで「扉を確実に閉める」が51.1%であった。

【ベビーゲート等の使用中の危害及びヒヤリ・ハット経験事例について】

- 自らが体験した「危害」「ヒヤリ・ハット」経験は、52.9%が特にないと答える一方、「ベビーゲートが外れた」が19.5%、「閉め忘れ(開いており)、子供が通り抜けた」が15.9%と高かった。
- 回答者全体のうち、「危害」「ヒヤリ・ハット」を47.1%の人が経験しており、そのうち、「危害」は、7.1%であった。その内訳は、「ケガをして入院」が1.8%、「ケガをして病院へ行った(入院を除く)」が3.0%、「ケガをしたが病院へは行かなかった」が2.3%であった。
- ベビーゲート等の取付方法は、つっぱりタイプが多く、事例としては、「外れて転倒した」が多かった。
- 子供の年齢は、1歳以上3歳未満に集中しており、全体の約8割を占めていた。
- 事例の内容としては、「ただベビーゲートを通っただけ」が37.1%で最も多く、次いで「ベビーゲートが外れてそのまま転倒」が15.8%、「ベビーゲートへの身体の挟み込み」が11.8%、「ベビーゲートを乗り越えようとして転落」が10.7%であった。
- 発生場所は、台所と階段に集中しており、台所が58.1%、階段の上が18.9%、階段の下が10.5%であった。

- 回答者が考える原因として、保護者自身に過失があったと考える「保護者が閉め忘れてしまった」20.2%や「保護者が子供から目を離してしまった」19.6%、「取付け方が悪かった」16.2%が割と高かった。また、「簡単には外れないと思っていた」19.6%や「ベビーゲート等が事故の原因になるとは思っていなかった」14.7%（70件）などの回答もあった。
- 事故情報に関しては、84.8%が報告していなかったが、子供がケガをした場合、販売店やメーカー、あるいは消費生活センターに報告を行う割合が高かった。

1 調査の概要

(1) 調査地域と調査対象者、有効回答数

①プレアンケート

東京都（一部近隣3県）に在住し、子供と同居する20歳以上の男女を対象に調査を行った。

有効回答 2,612件

②本調査アンケート

プレアンケートで、東京都在住で6歳未満の子供と同居し、「ベビーゲート等の使用経験がある」と回答した人を対象に調査を行った。

有効回答 1,008件

(2) 調査方法

WEBを利用したインターネットアンケート調査

(3) 調査実施期間

令和元年8月30日（金曜日）から9月3日（火曜日）まで

(4) 集計・分析に関する注釈

- ・回答比率（%）は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならない場合がある。
- ・設問によっては、複数回答の結果、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- ・図に表記される「n=*（*は数字）」は、対象の母数を表す。
- ・図や表の中での選択肢の文章が長い場合は、簡略化して表現しているため、アンケート調査票の文章とは一致していない場合がある。

2 プレアンケート調査結果

(1) ベビーゲート等の所有状況（複数回答）

子供が危険な箇所に立ち入ることを防止する目的で、ベビーゲート等を使用している、もしくは使用していたかについて尋ねた。

結果として約6割の人が使用しているか、過去使用していたことがわかった。

使用したベビーゲート等で、最も多かったのは、家屋に取付けるベビーゲートであり、41.2%（1,077件）、次いでベビーサークルの17.8%（466件）、家屋に取付けるベビーフェンスの12.7%（333件）、置くだけのベビーゲートの7.0%（184件）、置くだけのベビーフェンスの5.0%（131件）であった。一方、「いずれも使用したことがない」は38.4%（1,004件）であり、約4割の人がベビーゲート等を使用したことがないことがわかった。

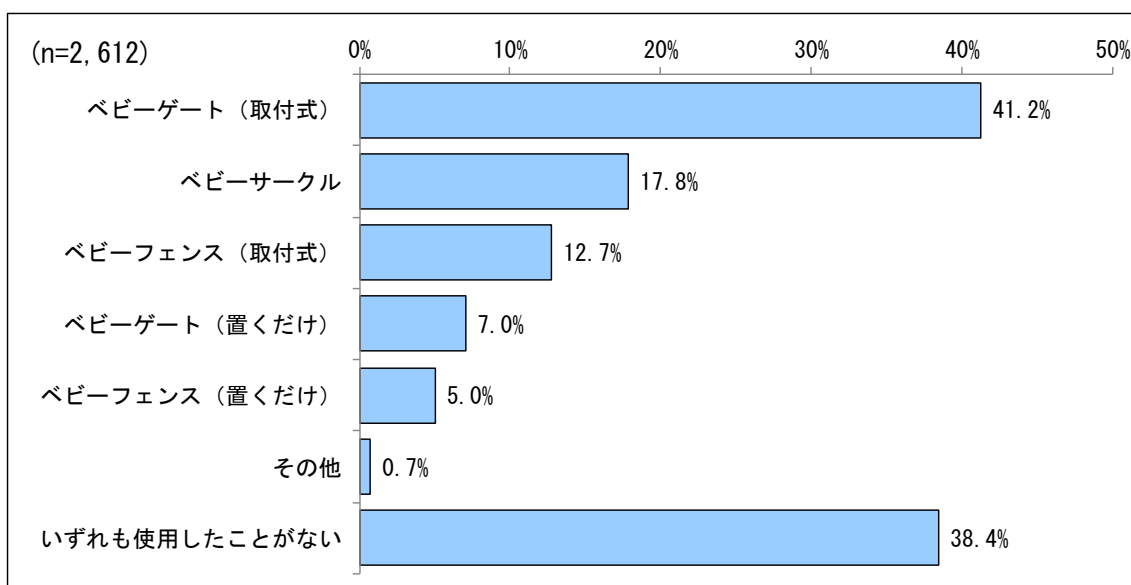
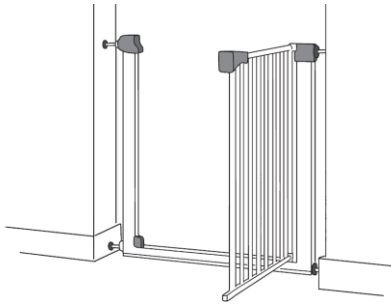


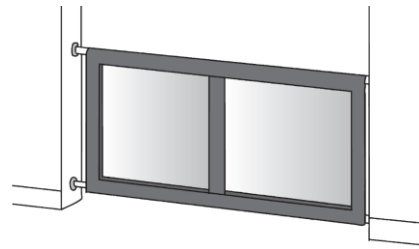
図1 ベビーゲート等の所有状況（複数回答）SC6

参考1 ベビーゲート等の種類

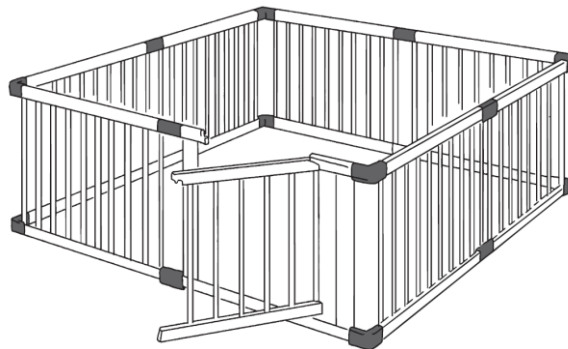
- ① ベビーゲート（開閉できるタイプで家屋に取付けるもの）
- ② ベビーフェンス（開閉できないタイプで家屋に取付けるもの）
- ③ ベビーサークル（ある範囲を囲って、子供をその範囲から出さないもの）
ベビーゲート（開閉できるタイプで置くだけのもの）
ベビーフェンス（開閉できないタイプで置くだけのもの）



①ベビーゲート
（開閉できるタイプで家屋に取付けるもの）



②ベビーフェンス
（開閉できないタイプで家屋に取付けるもの）



③ベビーサークル（ある範囲を囲って、子供をその範囲から出さないもの）

(2) ベビーゲート等を使用しなかった理由（複数回答）

(1) の設問で、「いずれも使用したことがない」と回答した人に対し、使用しなかった理由を尋ねた。多かった理由としては、「自宅に設置する場所がないから」が 27.8% (279 件) や、「子供にとって危険な場所が家の中にないから」が 20.6% (207 件)、「移動の妨げになるから」が 17.9% (180 件) であった。

一方、商品の効果に対し疑問を持つ「事故防止に役立つとは思えないから」の回答は、4.6% (46 件) と最も低く、商品の安全効果を期待するも、住環境を理由に設置を見合わせた人が多いと思われる。また、費用対効果の面で設置を見送っている回答の「高額だから」も 12.9% (130 件) と一定数いた。

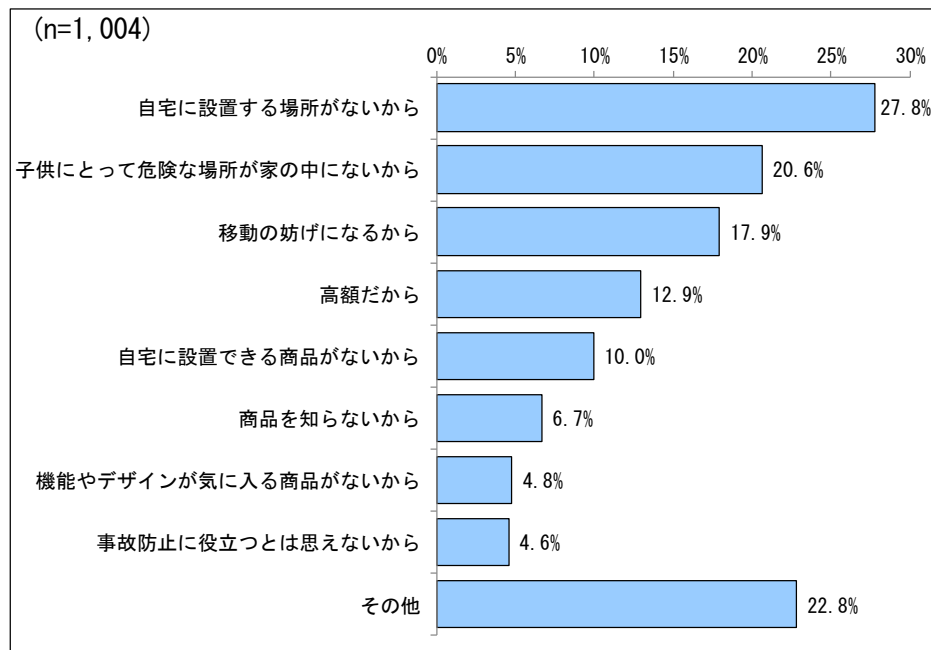


図2 ベビーゲート等を使用しなかった理由（複数回答）SC6-2

(3) 住居形態

住居形態は、マンション・アパート等の集合住宅（階段なし）が最も多く 40.8%（1,106 件）であった。次いで戸建て住宅（階段あり）で 33.0%（894 件）、マンション・アパート等の集合住宅（階段あり）19.7%（534 件）であった。集合住宅では、階段を屋内に持たない住居が多く、一方、戸建ての住居の場合、約 96%の人が階段付きの住宅に住んでいた。

なお、所有形態は、持ち家が 62.4%（1,629 件）、賃貸が 36.2%（945 件）であった（その他を除く）。

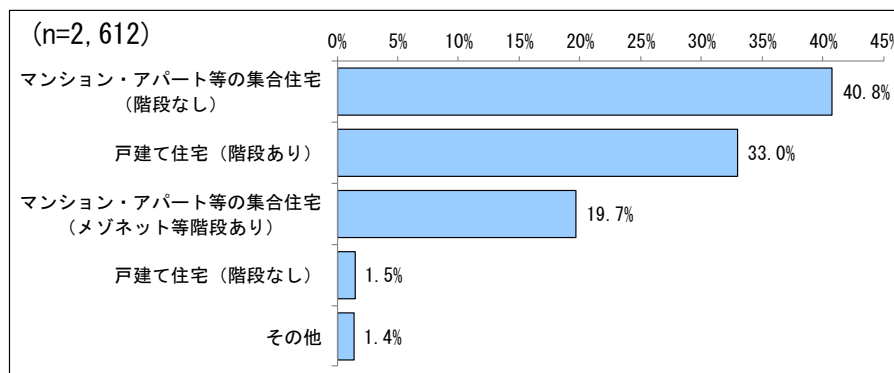


図3 住居形態（単一回答）SC7

住居形態に対し、選択したベビーゲート等の種類を図4で示す。

住居形態とベビーゲート等の種類との相関を調べた結果、集合住宅か戸建て住宅かにより、ベビーゲート等の種類の明確な選択傾向はなく、強いて言えば、戸建て住宅において、家屋に取付けるタイプのベビーゲートを選択する傾向が見受けられる。

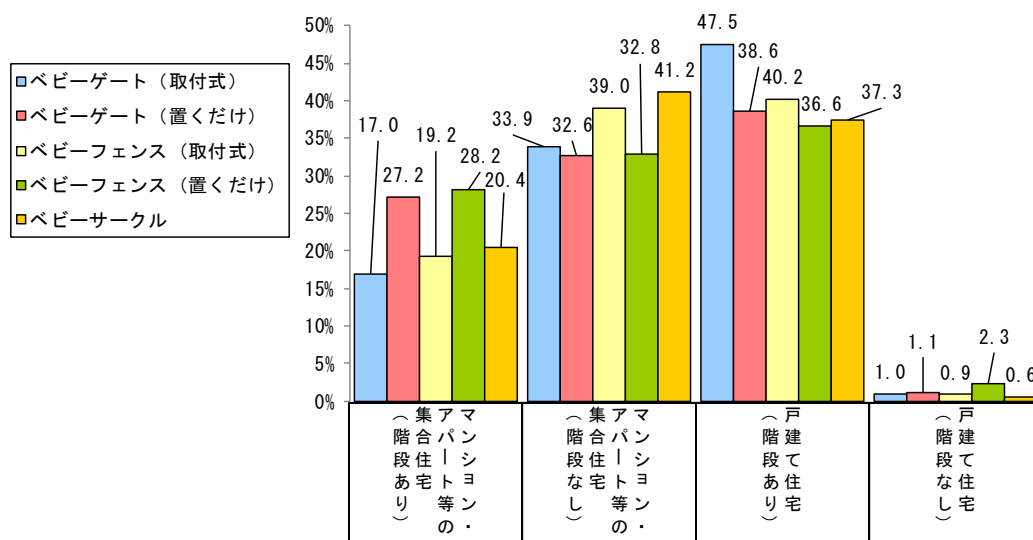


図4 住居形態とベビーゲート等の種類との相関 SC6×SC7

3 本調査アンケート調査結果

プレアンケートで、ベビーゲート又はベビーフェンスを使用している（していた）と回答した人を対象に調査を行った。

(1) ベビーゲート等の使用実態

使用している（していた）ベビーゲート等について質問した結果は以下のとおりである。

① 使用している（していた）ベビーゲート等の台数

所有台数は1台が最も多く、61.3%（618件）であった。次いで2台が27.7%（279件）、3台が8.1%（82件）であった。

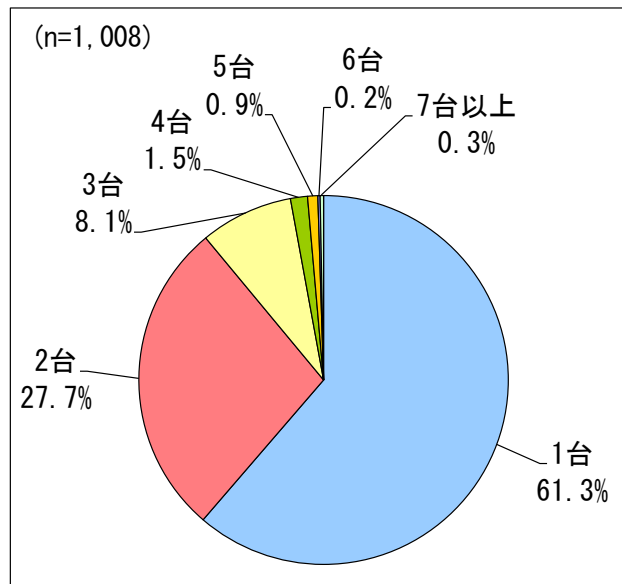


図5 使用している（していた）ベビーゲート等の台数（単一回答）Q1

② ベビーゲート等の設置場所（複数回答）

設置場所は、階段と台所出入口への設置が大多数を占めていた。最も多かった設置場所は、台所の出入口 62.2%（627 件）であった。階段は、階段の上 32.7%（330 件）と階段の下 18.4%（185 件）であり、階段の上下共に設置しているのは 11.3%（114 件）であった。

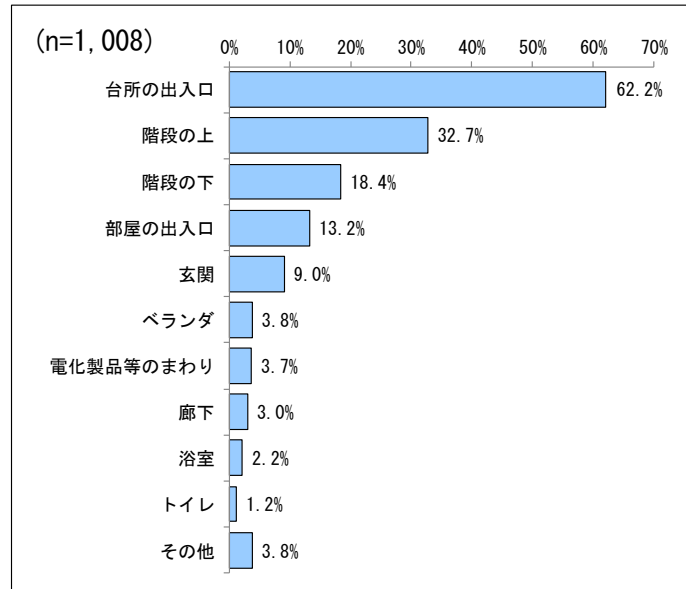


図 6 ベビーゲート等の設置場所（複数回答）Q2

プレアンケートの（3）の住居形態との相関を調べた結果、階段（階段の上、階段の下）への設置が多い住宅は、階段のある戸建て住宅で、階段の上：262 件、階段の下：154 件であった。

一方、台所の出入口への設置は、階段のない集合住宅が 302 件と最も多かった。

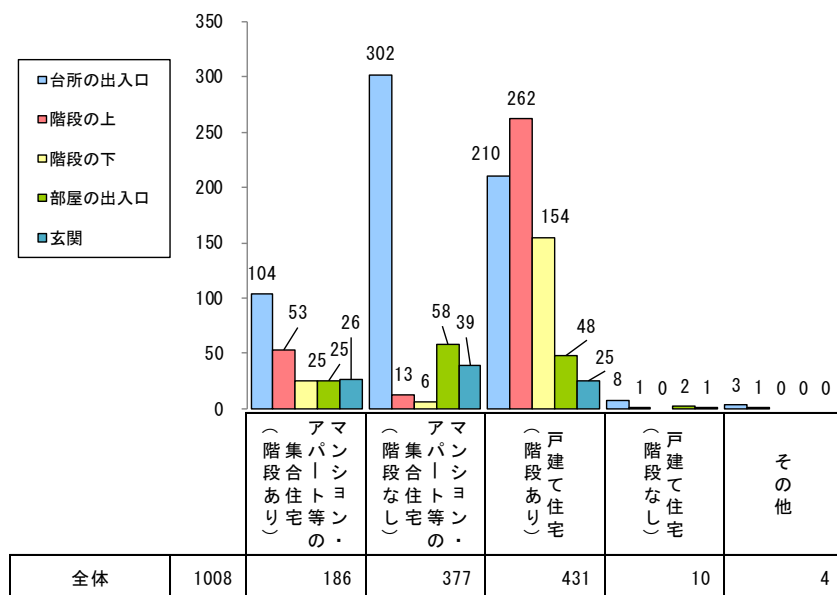


図 7 ベビーゲート等の設置場所と居住形態の相関（複数回答）Q2×SC7

③ ベビーゲート等の設置場所【最も危ないと考えている場所】

子供の立入防止のためにベビーゲート等を設置するにあたり、最も危ないと考えている場所は、台所が最も多く 51.7% (521 件) であった。次いで階段の上部 22.0% (222 件)、階段の下部 13.5% (136 件) であった。実際に設置した場所に対し、立入防止を期待した場所としても、台所と階段で 9 割近くと高い割合を占めていた。

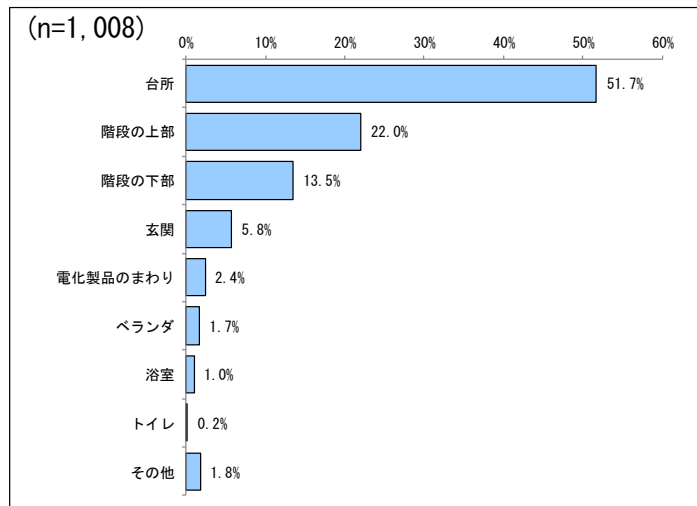


図 8 ベビーゲート等の設置場所【最も危ないと考えている場所】(単一回答) Q3

* 以下、④～⑮までは、最も危ないと考えている場所への立ち入りを防ぐために設置したベビーゲート等について、回答を得た。

④ 使用している(していた)ベビーゲート等の種類

ベビーゲート等の種類は、家屋に取付けるタイプのベビーゲートが 70.1% (707 件) と圧倒的に多かった。次いで置くだけのベビーゲート 9.2% (93 件) と、ベビーゲートが約 8 割を占めていた。

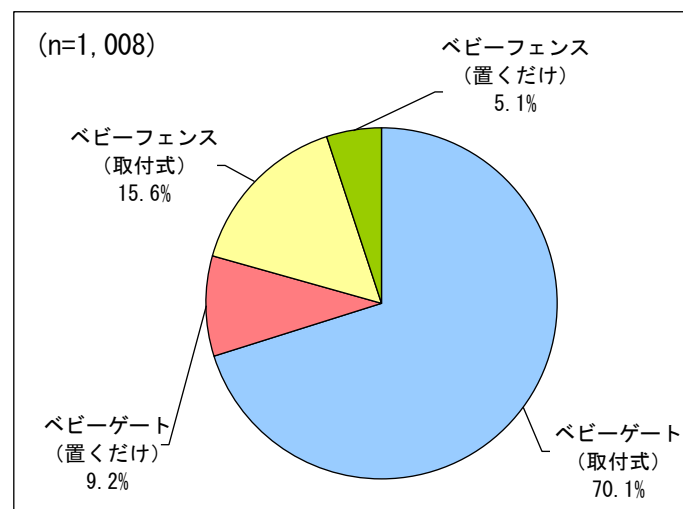


図 9 使用している(していた)ベビーゲート等の種類(単一回答) Q4

⑤ ベビーゲート等の取付方法

ベビーゲート等の取付方法は、78.8% (794 件) がつっぱりタイプ、据え置くタイプが14.3% (144 件)、ねじ止めタイプが6.9% (70 件) であった。

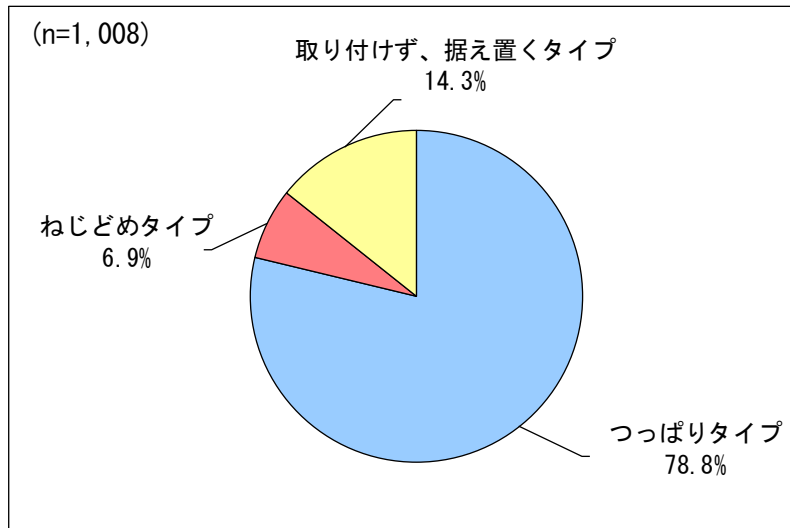
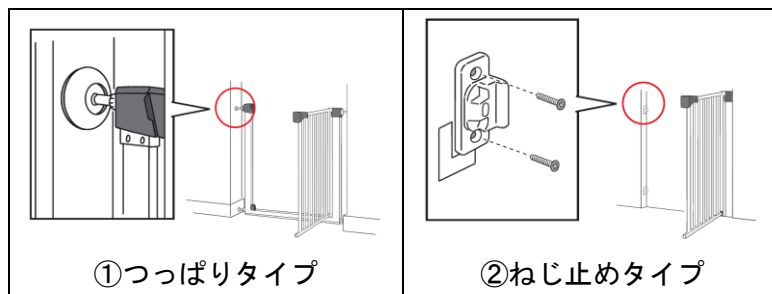


図 10 ベビーゲート等の取付方法 (単一回答) Q5

参考2 ベビーゲート等の取付方法の例



④の Q4 で取付式のベビーゲート、または取付式のベビーフェンスを使用している（していた）回答者のうち、取付方法の選択割合を計算した結果、つっぱりタイプの選択割合が高く、それぞれベビーゲートで 91.4%、ベビーフェンスで 94.3%であった。

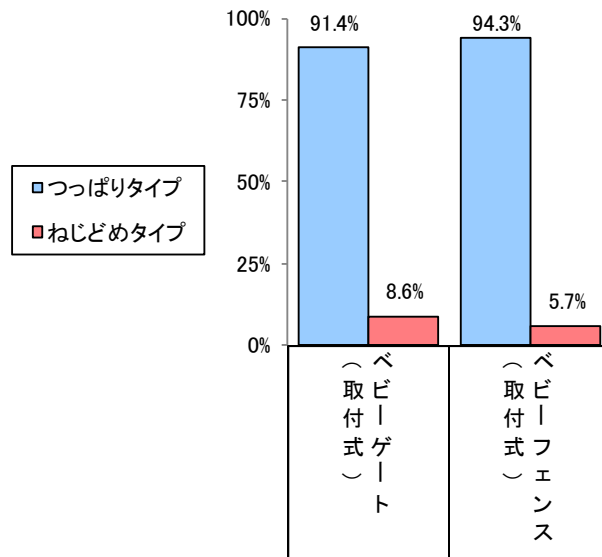


図 11 取付式のベビーゲート、およびベビーフェンスの取付方法 Q4×Q5

選択したベビーゲート等の設置場所と取付方法の種類について分析した結果、SG 基準では認めていない「階段の上」に「つっぱりタイプ」のベビーゲート等（固定用カップをつけた製品を除く）を使用しているとの回答は 163 件であり、設置場所を「階段の上」とした回答者のうち 73.4%であった。

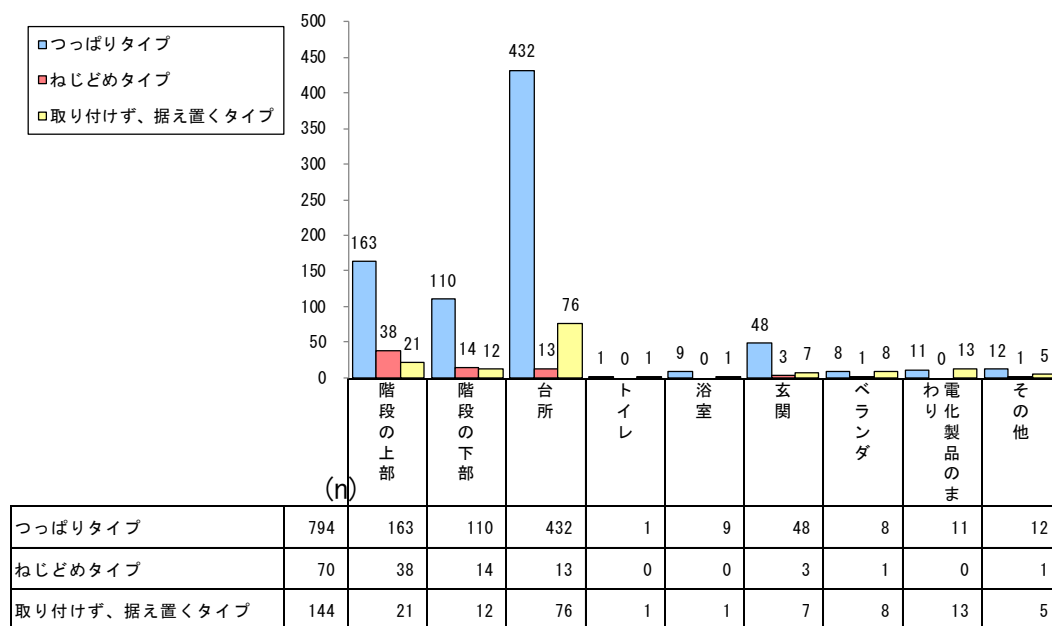


図 12 ベビーゲート等の設置場所と取付方法の種類の相関 Q3×Q5

⑥ ベビーゲート等を選んだ理由（複数回答）

ベビーゲート等の選択理由としては、「より安全に使用したいから」が43.4%（437件）、「家屋に傷をつけたくないから」が41.8%（421件）であり、この2つが突出した理由となっていた。次に「賃貸住宅だから」が21.8%（220件）と続き、「簡単な取付方法では外れそうで怖いから」が12.2%（123件）であった。

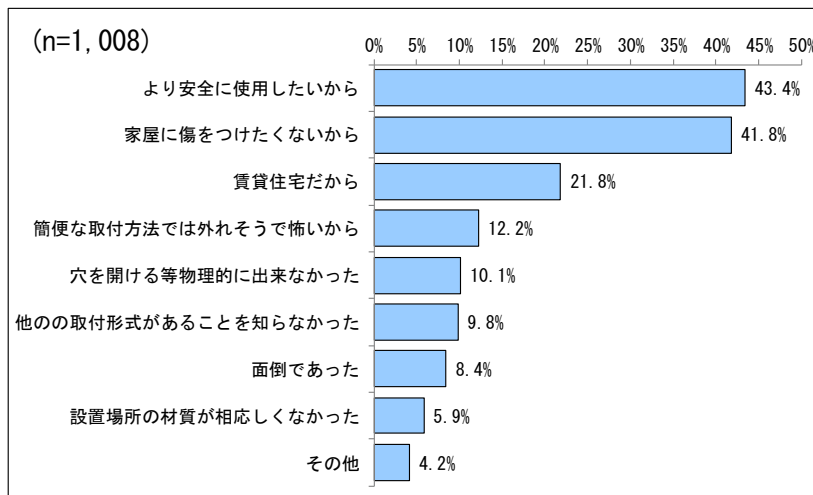


図13 使用したベビーゲート等の選択理由（複数回答）Q6

ベビーゲート等の取付方法別に選択理由を見ると、ねじどめタイプのベビーゲート等を選択した理由としては、「より安全に使用したいから」が78.6%（55件）と最も高く、つっぱりタイプの選択理由では、「家屋に傷をつけたくないから」が48.6%（386件）であった。ベビーゲート等をより安全に使用したいが、その取付方法により家屋に傷がつくかどうか、商品の選択に大きく影響していることが窺える。

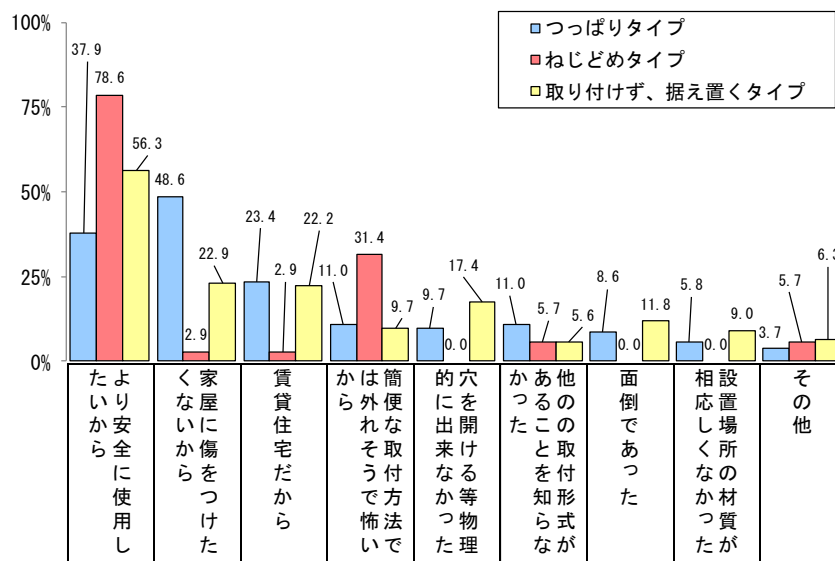
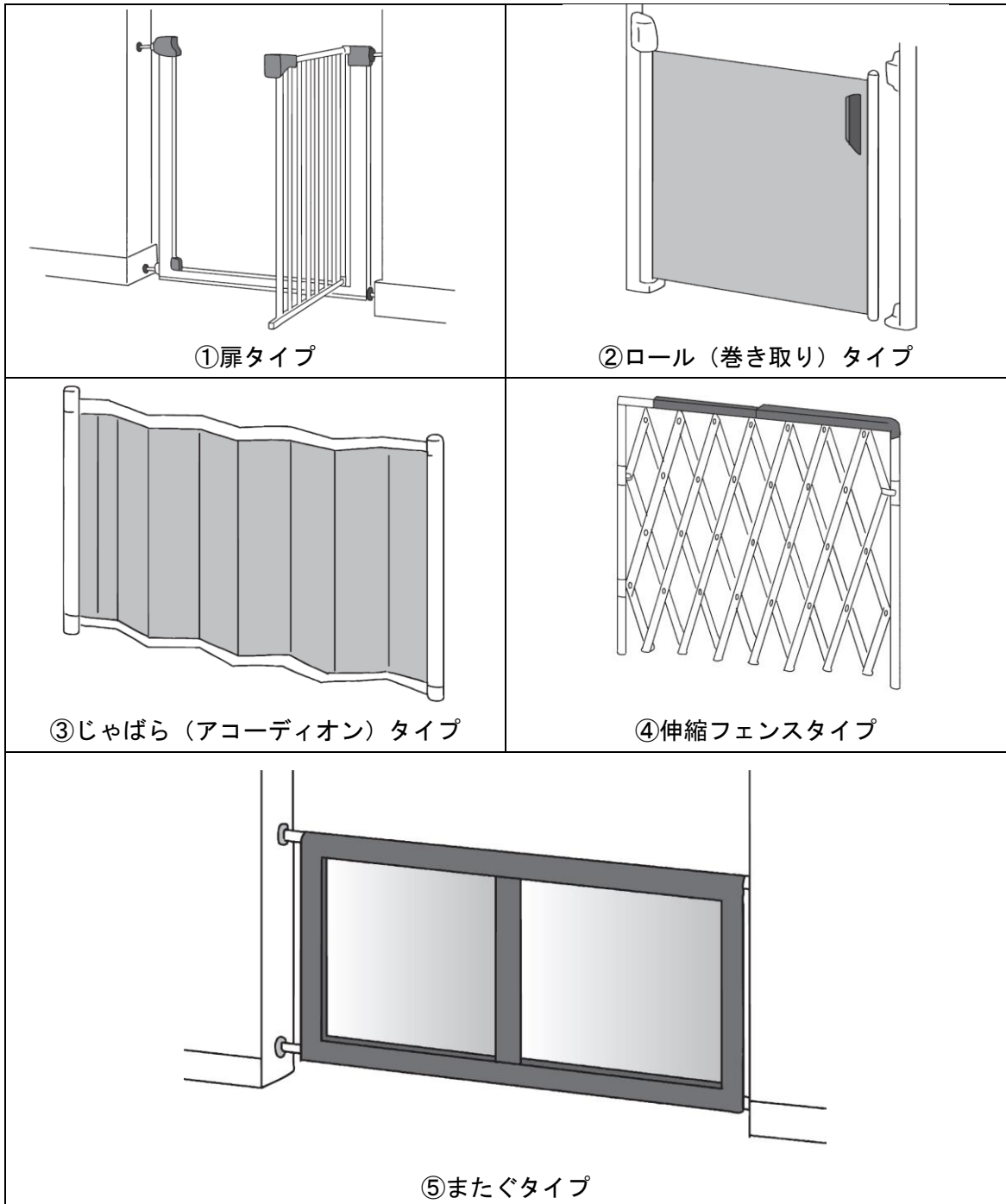


図14 各取付方法における選択理由 Q5 x Q6

参考3 ベビーゲート等のタイプ



⑦ ベビーゲート等のタイプ

設置したベビーゲート等のタイプは、扉タイプが71.0%（716件）と最も多く、次いでまたぐタイプが21.9%（221件）と、この2タイプで全体の約9割を占めていた。

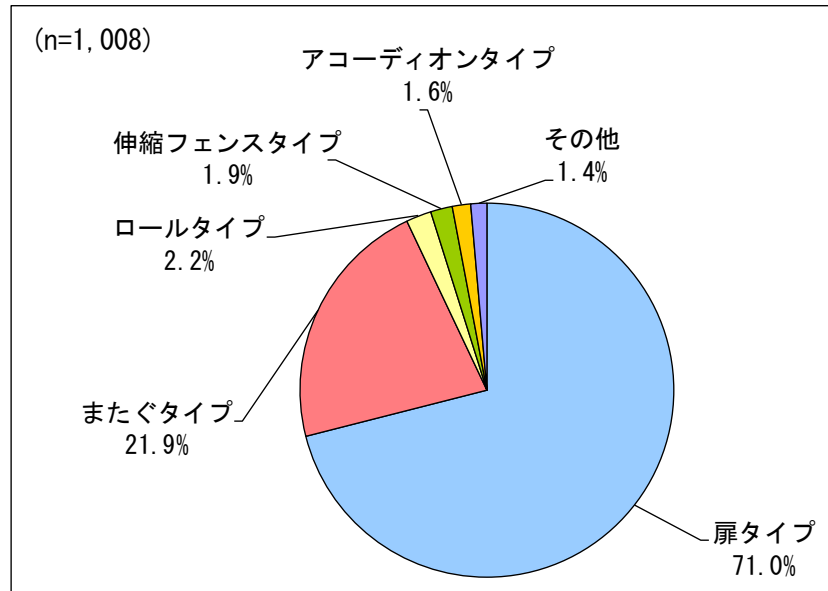


図15 ベビーゲート等のタイプ（単一回答）Q7

⑧ ベビーゲート等に拡張フレームを取付けたか

拡張フレームの使用割合は22.4%（226件）であった。

※拡張フレームとは、廊下などのさまざまな幅に対応するため、ベビーゲートの横に取り付ける部品

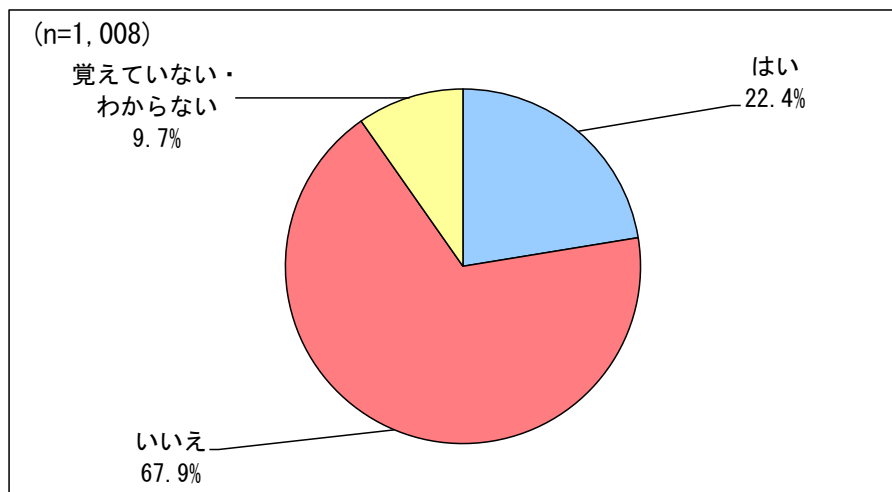


図16 拡張フレームの使用（単一回答）Q8

⑨ 入手したベビーゲート等は新品か中古品か

入手したベビーゲート等については、79.8%（804件）が新品であり、中古品の使用割合は8.2%（83件）、レンタル品は0.8%（8件）と、新品の割合が高かった。

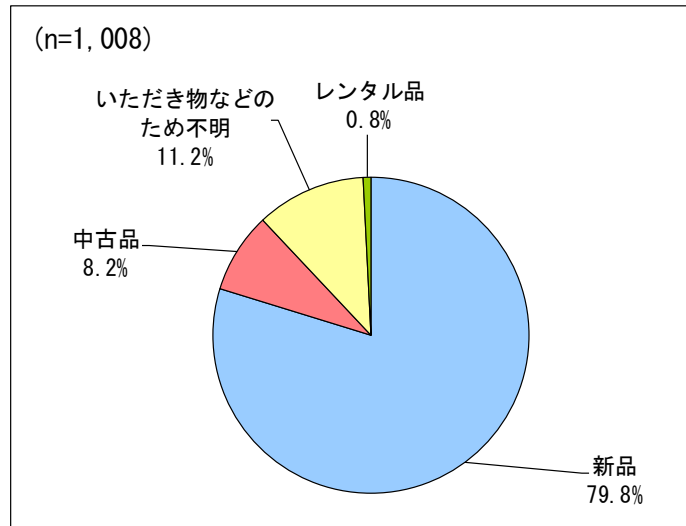


図 17 入手したベビーゲート等は新品か中古品か（単一回答）Q9

⑩ ベビーゲート等の入手先

入手先は赤ちゃん用品専門店が最も高く 42.0%（423件）、次いでメーカー直販以外のインターネット通販が 22.8%（230件）であった。

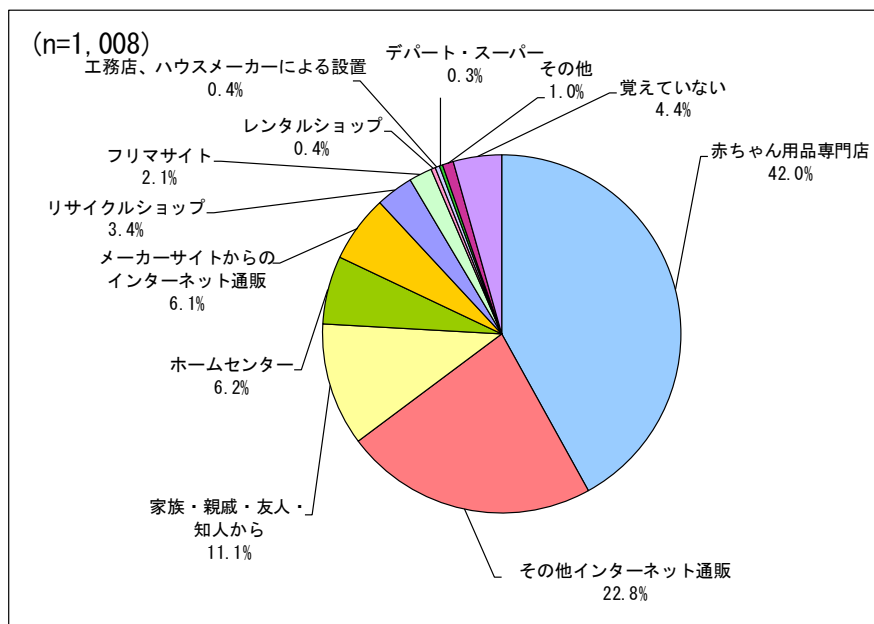


図 18 ベビーゲート等の入手先（単一回答）Q10

⑪ ベビーゲート等を選択した理由（複数回答）

選択理由は、価格が最も多く 53.5%（539 件）、次いでサイズが 45.1%（455 件）、デザインが 33.2%（335 件）、取り扱いやすさが 28.6%（288 件）、簡便で家屋に傷をつけない取付方法が 20.8%（210 件）であった。

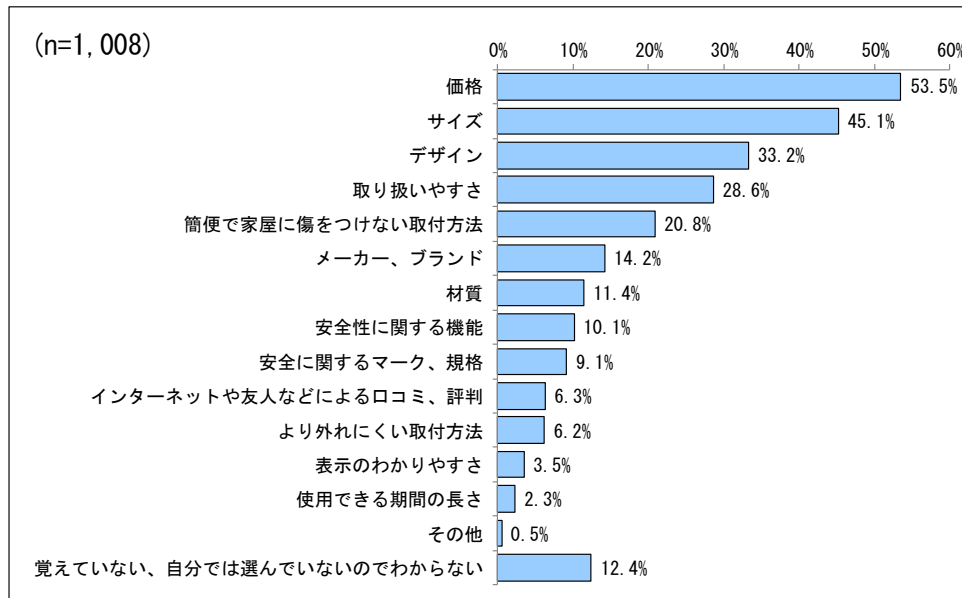


図 19 ベビーゲート等の購入選択理由（複数回答） Q11

⑫ ベビーゲート等を使用開始した時の子供の年齢

ベビーゲート等の使用開始年齢は、「7 か月～12 か月」が 49.2%（496 件）、「1 か月～6 か月」が 28.1%（283 件）、「13 か月～18 か月」が 10.8%（109 件）であった。一般的に赤ちゃんが「ずりばい」や「ハイハイ」を始める生後 5 か月から 1 歳の間にベビーゲート等を設置していることが窺える。

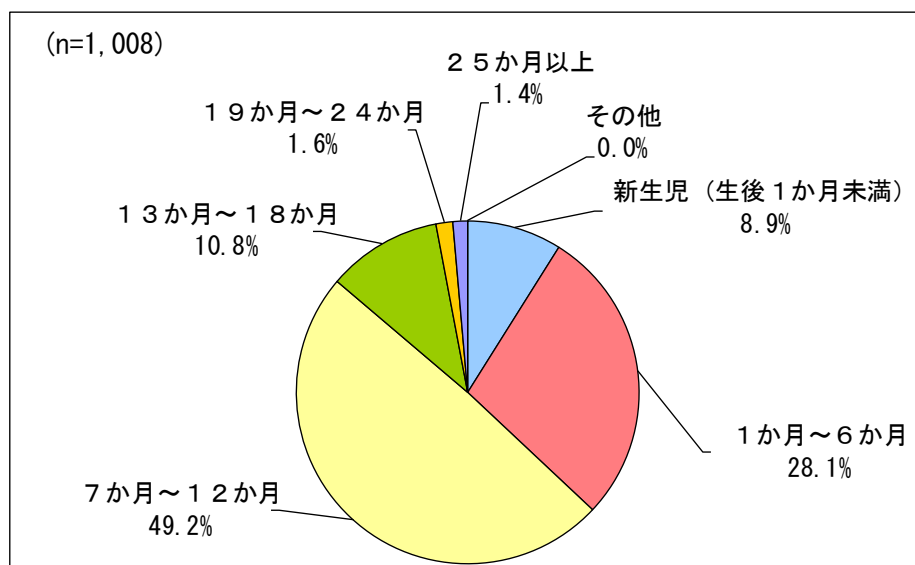


図 20 ベビーゲート等の使用開始年齢（単一回答） Q12

⑬ ベビーゲート等を使い終えた時の子供の年齢

最も多い回答は47.2% (476件) の「まだ使用している」であった。使い終えた年齢の割合を、全体から「まだ使用している」を除いて再度計算し、図22に示した。2歳が最も高く、34.2% (182件) であった。次いで「3歳」が29.9% (159件) であり、商品の対象年齢である24か月以内で使用を終えたのは27.3%であった。

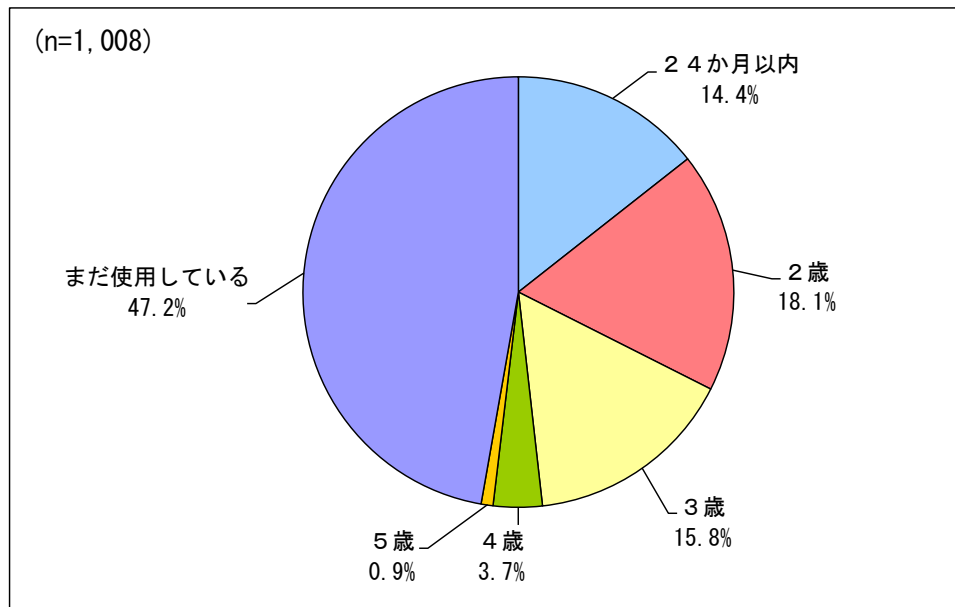


図21 ベビーゲート等の使用終了年齢 (単一回答) Q13

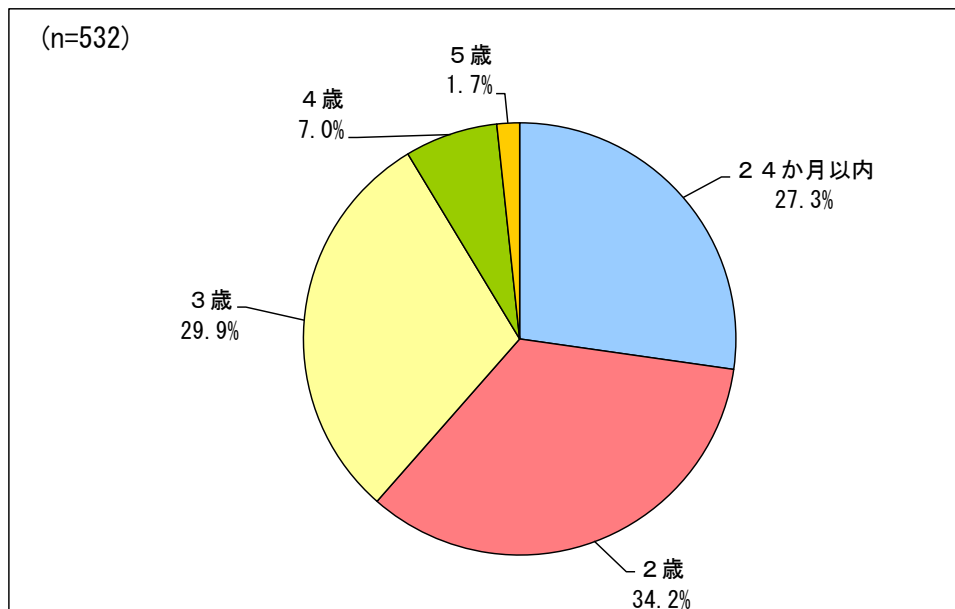


図22 ベビーゲート等の使用終了年齢 (使用継続者を除く) Q13

⑭ 使い終えた理由、または使い続けている理由（複数回答）

使用終了、あるいは使用継続の判断としては、「子供の発達状況を見て判断」が最も多く 63.4%（639 件）であり、その他の理由と比べて大きな差があった。

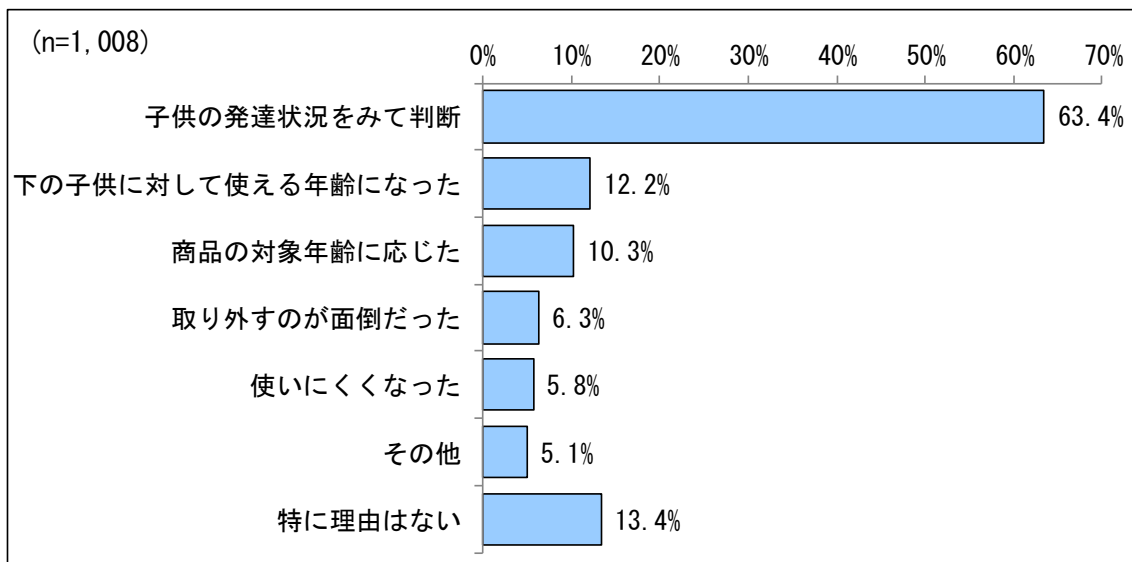


図 23 ベビーゲート等の使用終了、使用継続理由（複数回答） Q14

⑮ 取扱説明書を読んで取付けたか

64.1%（646 件）が「取扱説明書を読んで、すぐ取付けることができた」との回答であり、取扱説明書を読んで取り付けた人の割合は約 8 割と高い割合を示していた。

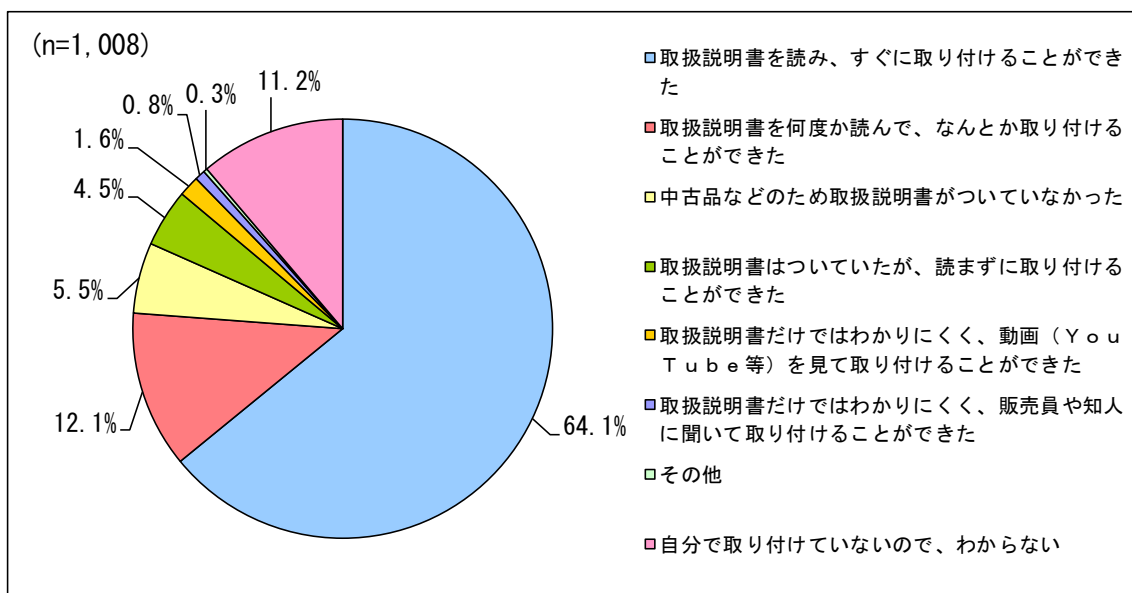


図 24 取扱説明書を読んで取付けたか（単一回答） Q15

(2) ベビーゲート等を使用する際の安全確保

使用する際の安全対策等について質問した結果は以下のとおりである。

① ベビーゲート等という子供の安全を確保するための商品をどこで知ったか

(複数回答)

情報入手先としては、「赤ちゃん用品専門店」が最も多い回答率 55.7% (561 件) で、(1) ⑩の「ベビーゲート等の入手先」の回答結果と一致していた。次に「家族・親戚・友人・知人」が 27.0% (272 件) と続いていた。

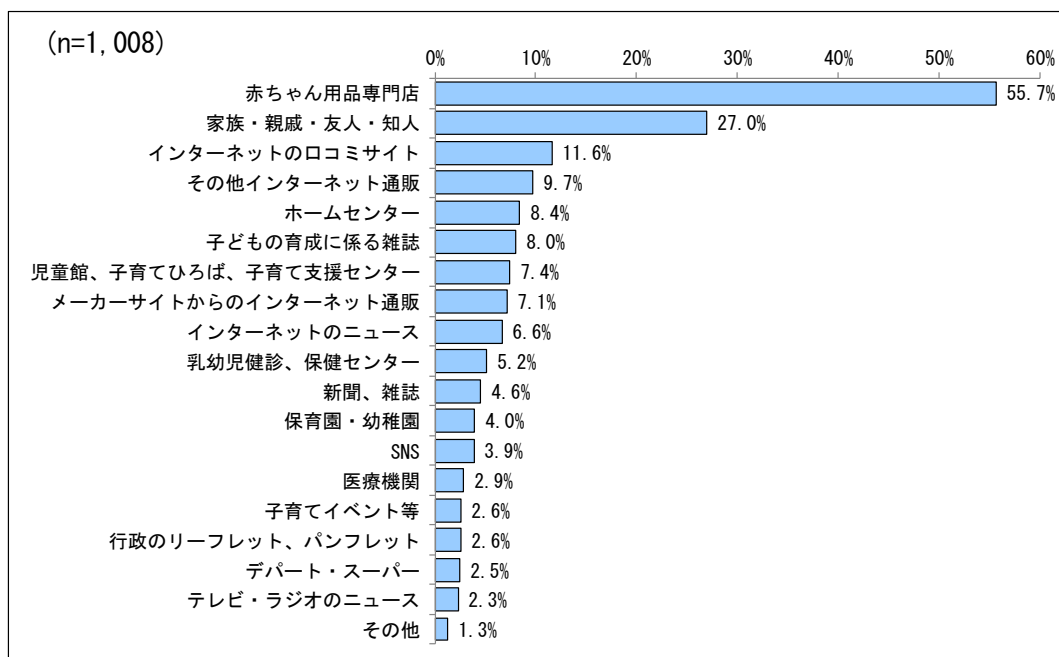


図 25 ベビーゲートという子供の安全を確保するための商品をどこで知ったか
(複数回答) Q16

② 事故防止に役立っている（いた）か

事故防止としてベビーゲート等が役立っているかについての問いに関して、92.4% (931件) が役立っていると回答しており、期待する効果が得られていることが窺える。

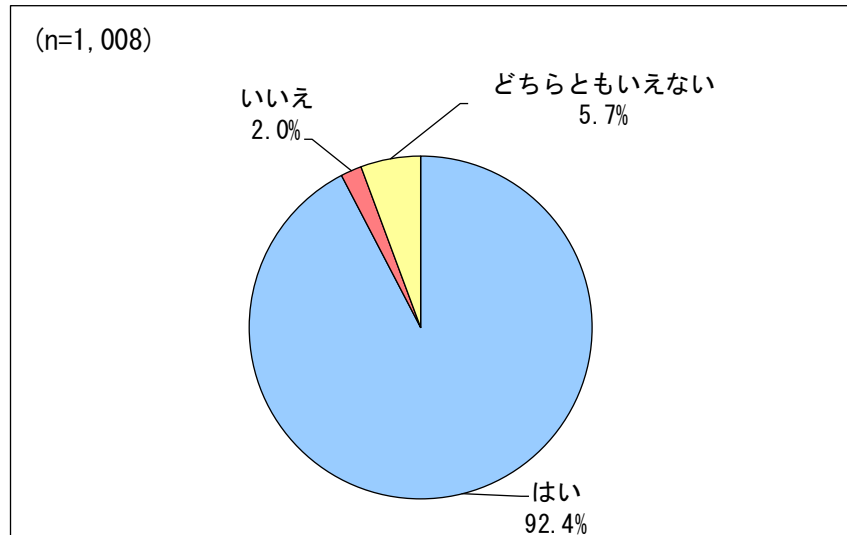


図 26 事故防止に役立っている（いた）か（単一回答） Q17

参考 4 SG マーク



「SG マーク」とは、Safe Goods（安全な製品）の略で一般財団法人製品安全協会が定めたマークです。「SG マーク」の付いた製品は、SG 基準に適合している安全性が高い製品であり、信頼性の高い第三者認証により安心して使用できる製品であると言えます。また、万一、人身事故が発生したときは、円滑な賠償措置が講じられる製品の証でもあります。

一般財団法人製品安全協会ホームページより抜粋

③ SG マークの認知度

回答者のうち、72.0% (726 件) が安全な製品を示すマークである「SG マーク」を知っていた。

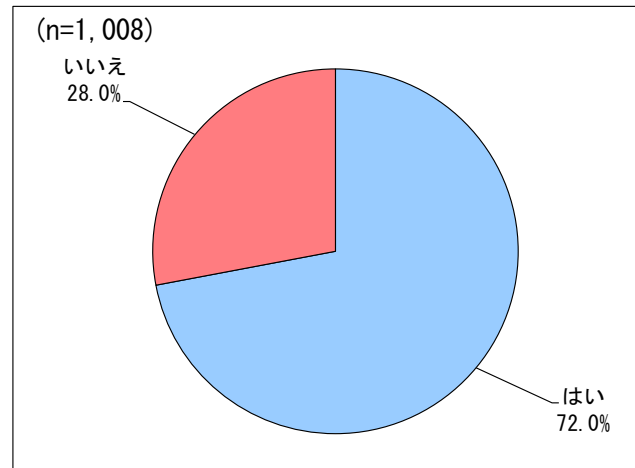


図 27 SG マークの認知度 (単一回答) Q18

④ ベビーゲート等の安全に関する改善点 (複数回答)

「特にない」が 34.0% (343 件) と最も多い回答であった。改善点としては、「ロック方法」が 25.1% (253 件)、「取付方法」が 22.4% (226 件)、「サイズ」が 21.0% (212 件)、「デザイン」で 20.1% (203 件) があった。

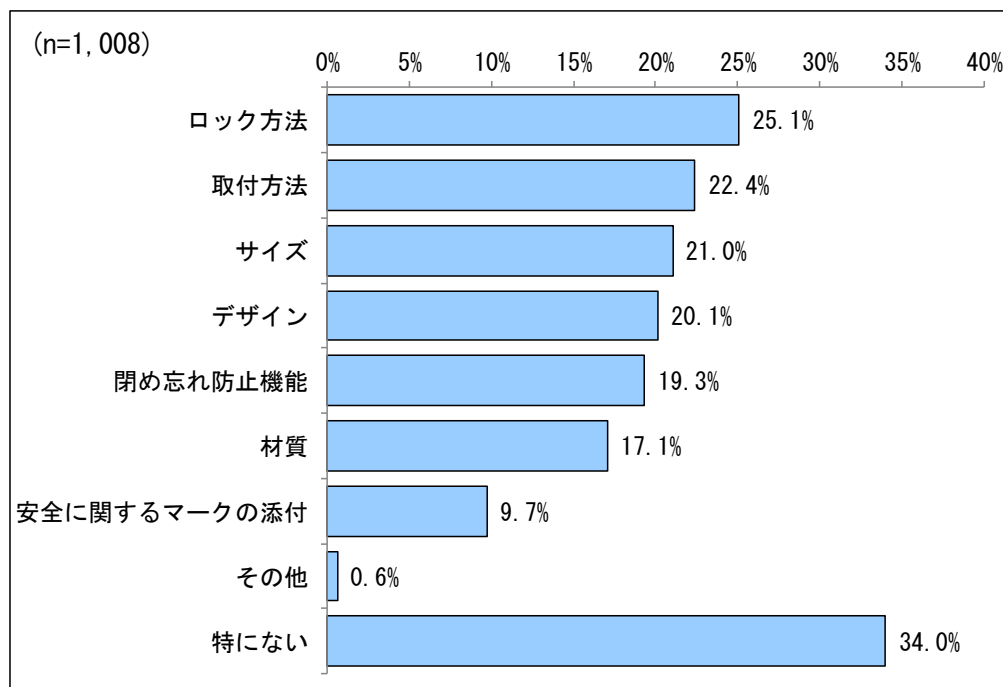


図 28 ベビーゲート等の改善点 (複数回答) Q19

コメントとして得られたベビーゲート等に対する要望(Q32)を9つに分類分けし、特筆すべきものを表1にまとめた。

「つっぱりタイプのベビーゲート等」について多かったのは、ズレてしまうことへの改善、家屋に傷を付けないよう改善することであった。特に家屋に傷をつけたくないからつっぱりタイプを選択したのに、結果的に壁に傷が付いたり、穴が開いたケースもあった。

「固定方法の改善」については、「つっぱりタイプのベビーゲート等について」と重複する意見が多く、家屋に傷を付けなくとも設置できるよう改善を求めた要望が多かった。

「満足している」意見については、子供の事故を避けられた事による安全を感じている意見のほか、子供と少しの間、離れられる空間を作ることが出来、子育ての息抜きが行えて助かったとの意見もあった。

「金額が高い」については、短い使用期間に対し割高感を感じている使用者がいることがわかった。

「ロックが外れにくいよう改善」については、現行のロック機構では子供が容易に解除してしまう事があり、より複雑なロック機構を求める意見もあった。また、長年使用すると、ロック機構が劣化し、外れ易くなるとの意見もあった。

「より安全なもの」については、「挟まれ」に対し、対策を求める意見と、安全製品認定を行い、その周知を行ってほしいとの要望があった。

「デザイン的な改良」については、色味や住宅の内装に合うようなデザインを求める意見が多い一方、子供の「乗り越え」を避けるため、形状の改善を求める意見もあった。

「サイズ・高さ・種類の拡充」については、居住住宅によって、現行の商品種ではサイズが合わず、ベビーゲート等の高さ、幅に関し、より豊富な選択肢を求める意見があった。

「わかりやすい表示・表記、危険情報の共有」については、手にした商品に危険性に関する表示がされておらず、十分な情報が得られていないと感じる人がいた。また、階段の上への設置に対し禁止してほしいとの意見もあった。

その他少数意見については、「ゲートの開け閉めの音が大きい」や、「対象年齢を広げてほしい」、「不要になったら回収してほしい」との要望があった。

表1 ベビーゲート等に対する要望 Q32

分類	具体的要望
つっぱりタイプのベビーゲート等	突っ張りタイプのベビーゲートを柔らかい壁に設置し使い続けていると設置の強度が落ちるということをなぜ説明しないのか。
	突っ張り棒タイプで、壁に穴があいた。
	小さい子供でも体が大きく、突っ張り棒のタイプのベビーゲートは力一杯揺らすと外れたりしてしまう。また何度も突っ張り棒を直す作業をしていると壁紙が剥がれたりしました。賃貸ですと突っ張り棒タイプのものしか使えないため、もっと耐久性のあるもの、壁紙への負担がないものにしてほしい。
	つっぱりタイプを使用していますが、固定ネジが硬くて素手ではしっかりと設置できません。固定があまくなっており、ネジが緩んでいる事が多々あります。ネジを固定する為のドライバーの様な物を付属して欲しいです。
	つっぱりタイプのものはゴムがダメになってしまうので耐久性がないこと。
	つっぱりタイプはずれてきてしまうししめすぎると扉の開閉が悪くなるので改善してほしい。
固定方法の改善	開閉式ではない固定タイプのものは、下か上がどちらか緩んだりして、子供がもたれ掛かった重みで外れる危険が多々ある。
	子供の安全のためとはいえ、購入したばかりの新居の壁に穴を開けたくない人は多いと思うので、なかなか難しいとは思いますが家屋を傷付けないで強度の高い(安全性の高い)製品を作ってほしい。
	賃貸だと、壁に穴を開けるものは取り付けられない。ネジ式は強度がやや不安。
	釘など壁を傷つけないでも様々な配置でも壁に固定できる設計にしてほしい。
満足している (よかった、安全だった)	すごく良くできていて、指を挟んだりする事がないように作られているし、大人が開けやすく、子供が開けられない構造になっていて感心しています。
	ベビーゲートのおかげで、安心して料理を作ることができたので助かりました。特に主人がほぼ家にいないので1人でほぼ一日中子どもを見ているのでベビーゲートがなかったらとても大変だったと思います。子育てで大変な時に台所で、こっそり甘いものを食べたり、落ち込んだり、子どもが来れないので安心の場としても助かってました。もう使うことがないですが、どうもありがとうございました。

金額が高い	もう少し安いと導入しやすい。
	使う期間が短い割に定価で買うと高価。
	値段が高い。
ロックが外れにくいよう改善	ロックが子供でも解除できるとは不安です。
	長く使用していると、ロック部分が弱くなってきて外れやすくなる。
	オートロック機能があると良いと思う。
	もう少し複雑な仕組みにしてほしい。頭のいい子はかなり早い段階でロックの開け方をマスターしてしまう。
より安全なもの	万が一手を挟んでも痛くない構造や素材だったら嬉しい。
	安全性の高い製品を認定し、周知する等の対策を取ってほしい。
	隙間に手を挟むことがないように、また転倒の心配がないよう、子供の目線でチェックする事が必要だと思います。
デザイン的な改良	よじ登ることが出来ない形状にしてほしい。
	いいデザイン(カラー)がない。
	内装に合うオシャレなものがない。
サイズ・高さ・種類の拡充	サイズのバリエーションを増やしてほしい。
	もう少し高く作った方が良い。
	設置には傷をつけず、簡単のものがありがたいが、子どもが動かせないものが欲しかった。フェンスやゲートの幅が狭く、階段上や下、台所などに合わないものがほとんどで家に使えるものを探し出すのが大変だったし、選択肢がなかった。サークルも大きさや枚数が少ないものが多く、拡張用を買い足したが、それでも足りなかった。部屋のベランダやドアから出られないよう、布団のまわりをL字で囲むようにパネル式ベビーサークルを使用したけど、やはり安定感には欠けたので、一部屋全体で使えるようなものがあってもよいと思う。
	取り付けの最大幅をもっと広くした商品を出して欲しい。
わかりやすい表示・表記、危険情報の共有	ネット通販で商品が乱立していますが、品質認証マークが表示されると安心できます。ネットは触ることができない為、特に不安です。
	ベビーゲートを乗り越えようとして子どもが転落する事故は知人も起こしているの、子どもが2歳ごろになったらそのような危険があることを周知してほしい。
	階段の上に設置は禁止してほしい。
	危険性についての記載はなかった。
	説明書がわかりにくい。
	販売店で実際の取り付け状態のサンプルがあると判りやすく参考にしやすい。

⑤ 事故事例の認知状況（複数回答）

ベビーゲート等に関する事故事例を見聞きしたことがない人は45.0%（454件）と一番多かった。一方、事故事例を見聞きした経験では、「テレビ・ラジオのニュース」が20.8%（210件）であり、次いで「自らの経験」18.6%（187件）であった。

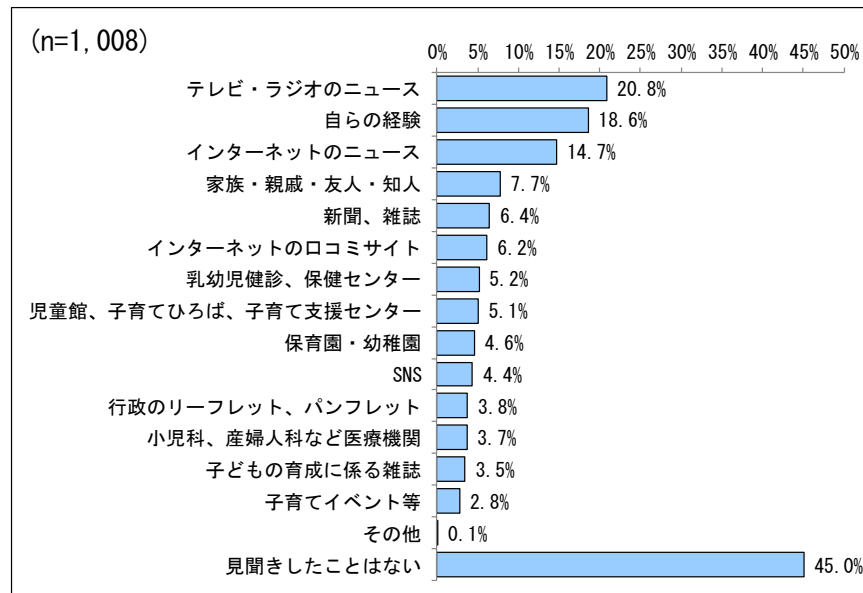


図 29 事故事例の認知状況（複数回答）Q20

⑥ 取扱説明書や本体の注意事項の確認（複数回答）

取扱説明書や本体に添付されていたラベルなどに記載されている「ご使用前に」「安全についての注意事項」などについて確認したか聞いたところ、「取扱説明書の必要なところだけ読んだ」が43.3%（436件）と最も多く、続いて「すべて読んだ」が24.7%（249件）であり、使用に際し、取扱説明書や注意事項に対し多くの方が目を通している事が伺える。一方、「取扱説明書や本体への注意表記は読んでいない・見ていない」のは4.7%（47件）であった。

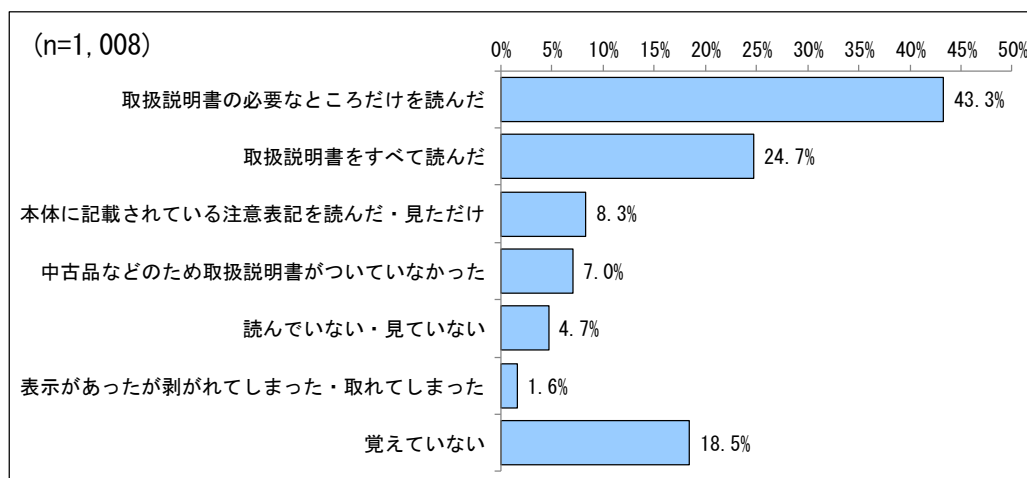


図 30 取扱説明書や本体の注意事項の確認（複数回答）Q21

⑦ ベビーゲート等による事故の防止対策

事故防止のために注意している点は、「取り付けを確実に行う」が62.6%（631件）と最も多く、次いで「扉を確実に閉める」が51.1%（515件）、「こまめに点検する」が23.9%（241件）であった。

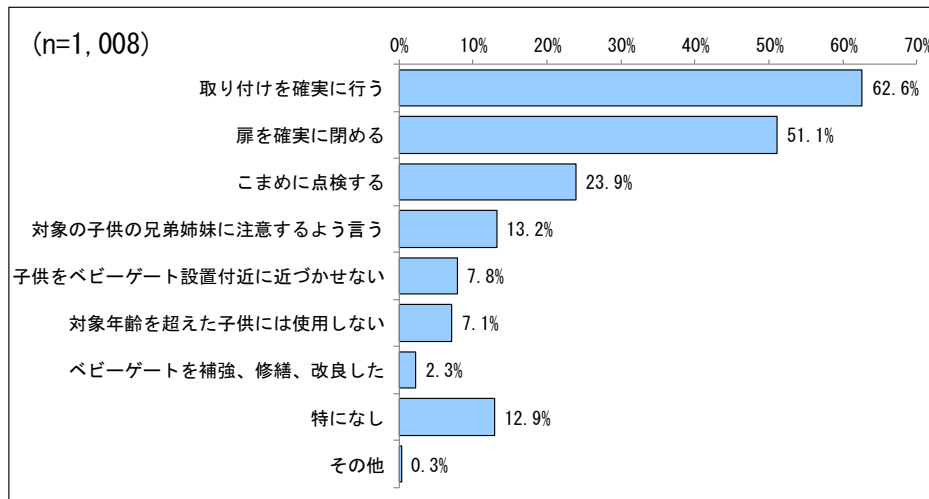


図31 ベビーゲート等による事故の防止対策（複数回答）Q22

(3) ベビーゲート等の使用中の危害及びヒヤリ・ハット経験事例

ベビーゲート等を使用中の危害及びヒヤリ・ハット経験について質問した。

① 危害及びヒヤリ・ハットの経験

危害及びヒヤリ・ハット経験に関しては、半数以上の52.9%（533件）が「特になし」との回答であった。

一方、経験事例では、「ベビーゲートが外れた」が19.5%（197件）と一番多く、「閉め忘れ（開いており）、子供が通り抜けた」が15.9%（160件）、「乗り越えようとした、または乗り越えた」が13.2%（133件）であり、「子供が開けて、通り抜けた」が10.4%（105件）、「ベビーゲートそのものでケガをした」が4.5%（45件）であった。

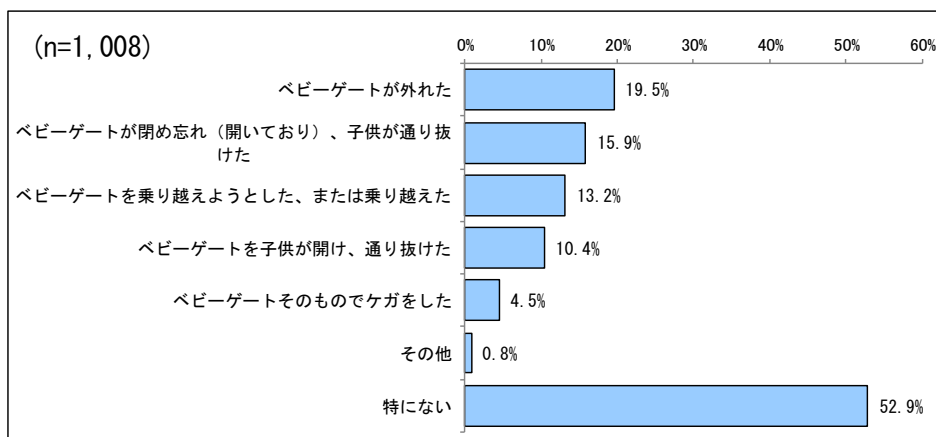


図32 危害及びヒヤリ・ハット経験（複数回答）Q23

【以降の設問は事故経験者に対する質問の回答である。複数の危害、ヒヤリ・ハット経験がある場合は、最も危害及びヒヤリ・ハットの度合いが大きかった経験である。】

② 事故による子供の危害の有無

経験した事故の多くはケガ（危害）を伴っておらず、「ただ通り抜けただけ」が 19.9%（201 件）、「ケガはしなかった」が 19.8%（200 件）であり、全体の約 4 割であった。

ケガの程度は、「ケガなどをして入院」が 1.8%（18 件）、「ケガなどをして病院へ行った（入院を除く）」が 3.0%（30 件）、「ケガはしたが病院へは行かなかった」が 2.3%（23 件）であった。これら危害の割合は、全体の 7.1%（71 件）であった。

これら危害とヒヤリ・ハット経験者の合計は 47.1%（475 件）であり、特にないとの回答は 52.9%（533 件）であった。

表 2 回答者全体に占める危害及びヒヤリ・ハット経験の割合 Q23×Q24 (n=1008)

危害及びヒヤリ・ハット経験	回答数	割合 (%)
ケガをして入院【危害】	18	1.8
ケガをして病院に行った（入院を除く）【危害】	30	3.0
ケガをしたが病院へは行かなかった【危害】	23	2.3
危ないと思ったが、ケガはしなかった【ヒヤリ・ハット】	200	19.8
ただ通り抜けただけ【ヒヤリ・ハット】	201	19.9
その他	3	0.3
小計	475	47.1
特にない	533	52.9

ベビーゲート等の取付方法に関して調査した (2) の⑤において、図 12 に示したように、階段の上部につっぱりタイプを設置している回答が多かったため、設置場所と取付方法と事故事例との関係を分析した。その結果、「つっぱりタイプのベビーゲート等を階段の上に設置」した場合、「ベビーゲート等への身体の挟み込み」の割合が 21.1%と最も高く、「ベビーゲート等が外れてそのまま転倒」が 14.1%と続いた。

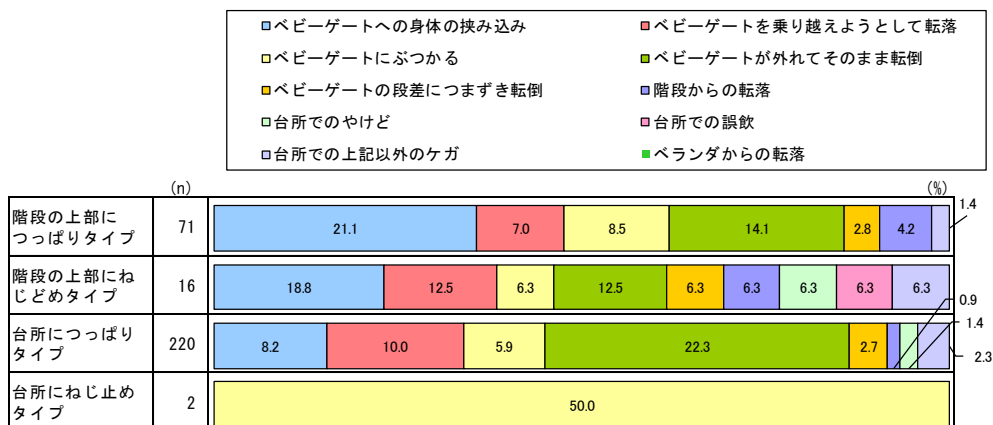


図 33 設置場所と取付方法から見た事故事例 Q3×Q5×Q26

実際に発生した危害及びヒヤリ・ハット経験事例の内容をしてみると（表 3）、コメントとして「つっぱりタイプ」の取付方法で多くの事例が寄せられており、中でもベビーゲート等が外れて倒れる事例*が多く確認された。ゲートが外れてしまう原因としては、「子供がぶら下がる」、あるいは「子供が揺らす」等、子供の行為により外れた事例が多かった。また、ベビーゲートにおいては、「指を挟む」事例も確認された。

表 3 取付方法別の危害及びヒヤリ・ハット経験の事例 Q30

（※表中網掛け太字表記はベビーゲート等が外れた事例）

取付方法	事例
つっぱりタイプ	子供がのって倒れた (1歳2か月、台所)
	カズクで息子があけて、ゲートが外れてゲートが落ちて一緒に階段から落ちてしまった (4歳1か月、階段の上)
	ゲートにタオルをかけていて、鍵をかけ忘れ子供が扉を開けてそのまま階段から落ちた (1歳、階段の上)
	上の子のお友達が優しさからゲートを開けてしまった (1歳3か月、階段の上)
	子供が台所のベビーゲートを超えてこちらに来ようとして転落。踏み台として、遊びで使っていたバイクを使用。 (2歳、台所)
	走ってぶつかった (1歳1か月、階段の上)
	使用しているうちに緩んで外れてしまった (2歳1か月、階段の上)
	ベビーゲートの上に乗っかっていて、そのまま落ちた。 (2歳、台所)
	ぶつかって外れた (1歳3か月、台所)
	見ていない時に開けようとして、ゲートが噛み合う部分に指を挟み、怪我をした。 (3歳、階段の下)
	こどもがベビーゲートをいじり、ゲートが閉まってしまった時に指を挟んだ。 (8か月、部屋の出入り口)

	<p>がんとんして倒れた (2歳、台所)</p>
	<p>子供がグズって泣いているとき、ベビーゲートをガタガタ揺らしていたので危ないとは思っていた。そのまま後ろに外れた。 (2歳6か月、台所)</p>
	<p>手で上の棒を掴み足を下のサークルに乗せガクガク暴れていたままたま衝撃が強かったのか外れて子供が下敷きになりました。 (1歳、玄関)</p>
ねじどめタイプ	<p>開け方をよく見ていて、真似しようとする、娘の指が挟まれる (2歳2か月、台所)</p>
	<p>ベビーゲートの扉を閉め忘れた (1歳3か月、階段の上)</p>
取付けず、 据え置くタイプ	<p>柵を乗り越えて落下 (1歳3か月、台所)</p>
	<p>勝手に開けて入った (2歳2か月、台所)</p>
	<p>ゲートの隙間から抜け出し階段から落下 (1歳7か月、階段の上)</p>
	<p>ベビーゲートに寄りかかっていたのが外れて顔面をうっていた (1歳6か月、台所)</p>

③ 危害及びヒヤリ・ハット経験時の子供の年齢

危害及びヒヤリ・ハット経験時における子供の年齢は、「1歳以上2歳未満」がおよそ半数の50.5%（240件）であり、次いで「2歳以上3歳未満」が30.3%（144件）であった。発生した事故の8割以上が、歩き始める時期である1歳から3歳までの間で起きている。

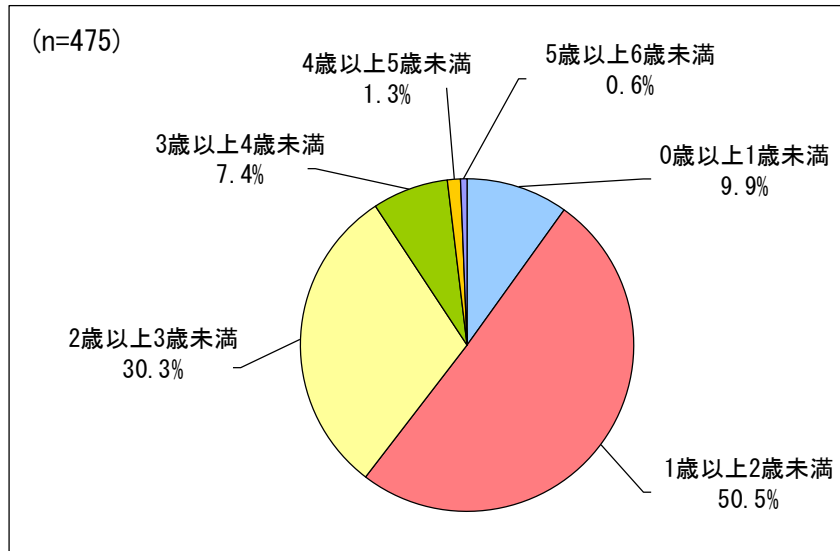


図 34 危害及びヒヤリ・ハット経験時の子供の年齢（単一回答）Q25

④ 危害及びヒヤリ・ハット経験の内容

「ただベビーゲートを通っただけ」が37.1%（176件）と最も多く、次いで「ベビーゲートが外れてそのまま転倒」が15.8%（75件）、「ベビーゲートへの身体の挟み込み」が11.8%（56件）、「ベビーゲートを乗り越えようとして転落」が10.7%（51件）であった。

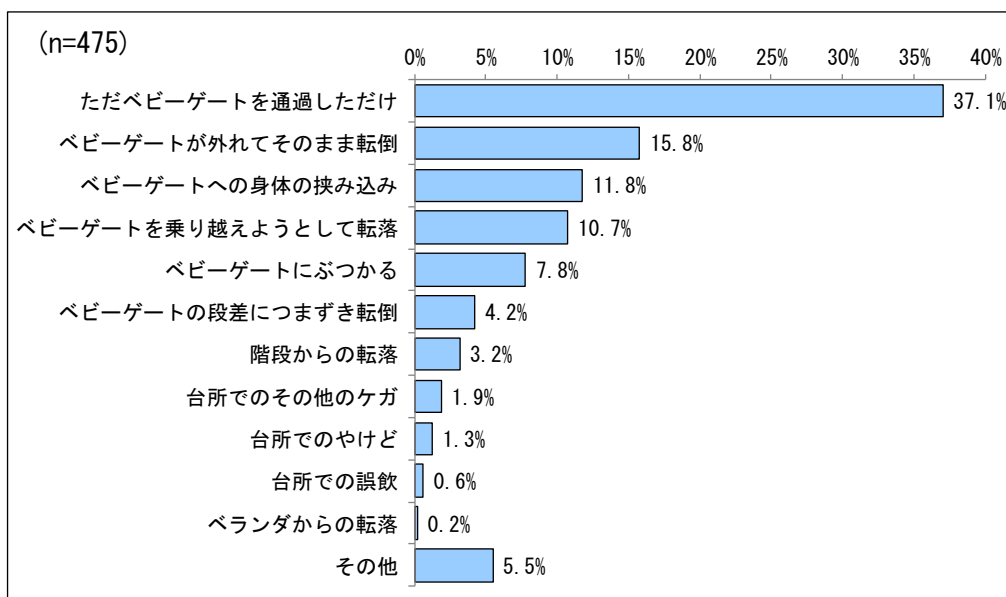


図 35 危害及びヒヤリ・ハット経験の内容（単一回答）Q26

⑤ 危害及びヒヤリ・ハット経験時に使用していたベビーゲートの種類

使用していたベビーゲート等は「家屋に取付けるタイプのベビーゲート」が 69.1% (328 件) と約 7 割を占めており、Q4 の最も危険な場所への立入防止のために設置したベビーゲート等と結果と割合がほぼ同じであった。従って、ベビーゲートの種類と事故の間に相関は見られない。

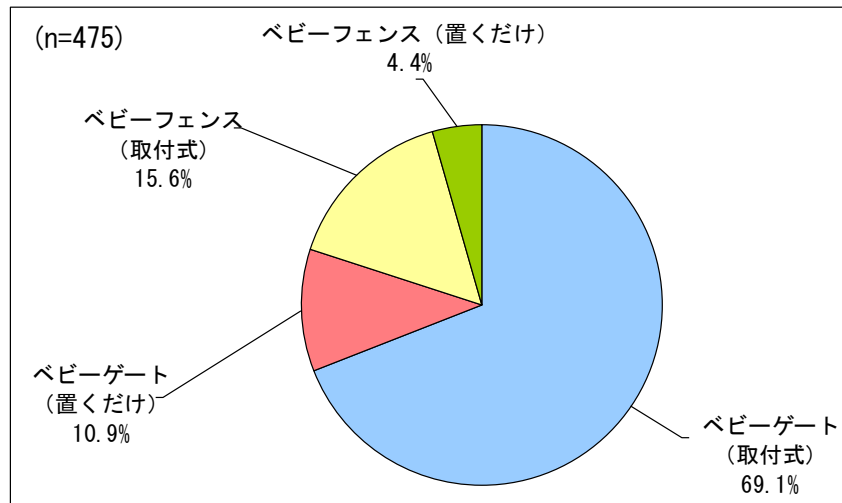


図 36 危害及びヒヤリ・ハット経験時に使用していたベビーゲート等の種類 (単一回答) Q27

⑥ 危害及びヒヤリ・ハット経験の発生場所

場所としては台所が最も多く 58.1% (276 件) であった。次いで階段の上が 18.9% (90 件)、階段の下が 10.5% (50 件) と続き、階段が合わせて 29.5% (140 件) であり、9 割近くの事例が台所と階段で発生していた。

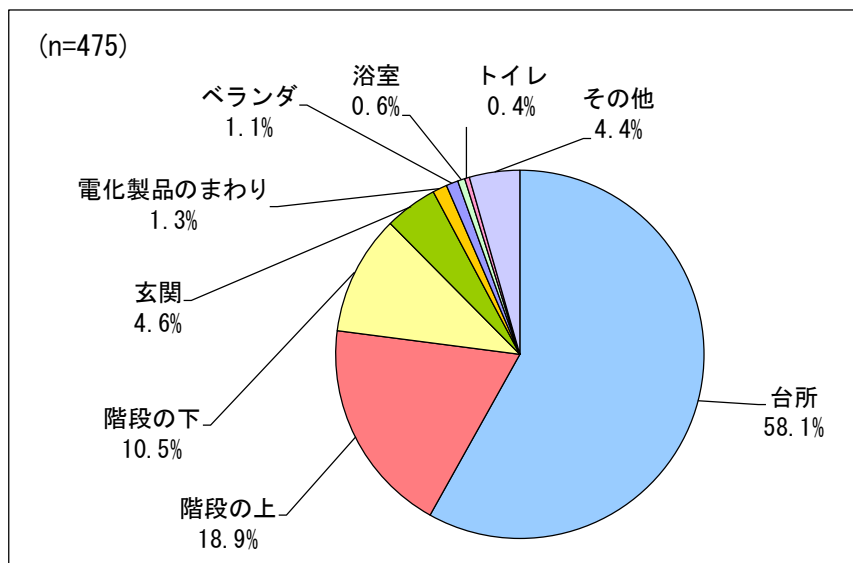


図 37 危害及びヒヤリ・ハット経験の発生場所 (単一回答) Q28

発生した場所と危害及びヒヤリ・ハットの程度を見てみると、「ケガをして入院【危害】」とけがをして病院に行った（入院を除く）【危害】の発生は、階段上で多くなっており、その割合はおよそ 50%であった。一方「ケガはしなかった【ヒヤリ・ハット】」や「ただ通り抜けただけ【ヒヤリ・ハット】」においては、台所での発生割合が高く、どちらもおよそ 60%であった。

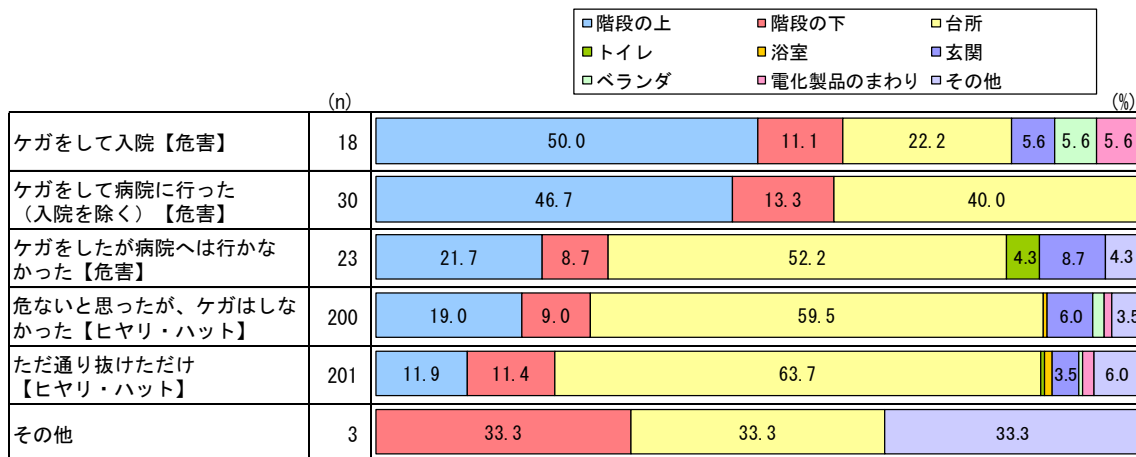


図 38 危害及びヒヤリ・ハット経験の程度と発生場所（単一回答）Q24×Q28

⑦ 危害及びヒヤリ・ハット経験の原因（複数回答）

原因として、保護者自身に過失があったと考える「保護者が閉め忘れてしまった」の 20.2%（96 件）や「保護者が子供から目を離してしまった」の 19.6%（93 件）、「取り付け方が悪かった」の 16.2%（77 件）が割と高かった。また、「簡単には外れないと思っていた」の 19.6%（93 件）や「ベビーゲート等が事故の原因になるとは思っていなかった」の 14.7%（70 件）と、保護者が考える商品に対する安全性の予測を超えていたという回答も多かった。

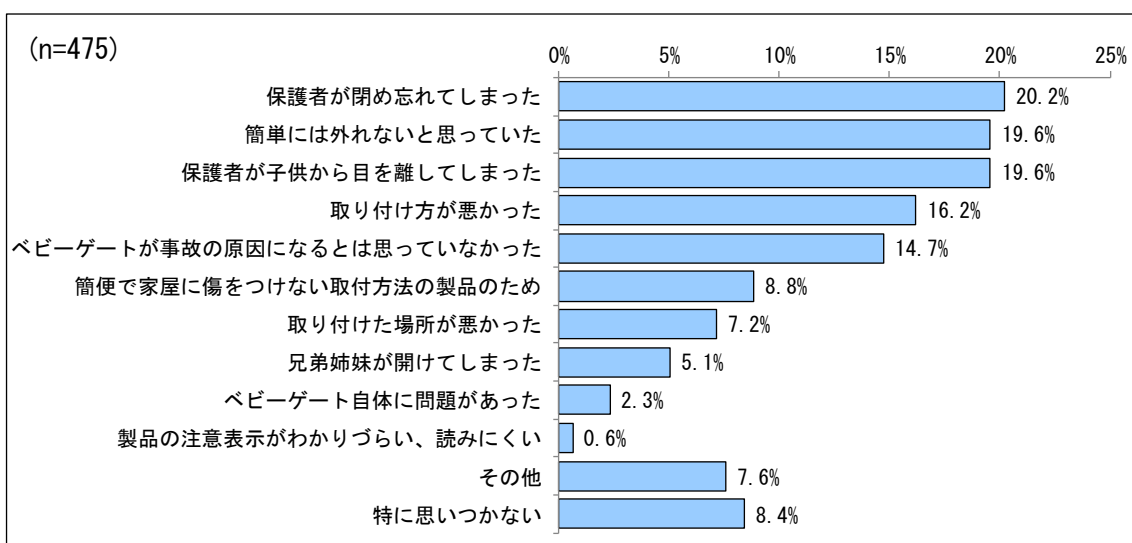


図 39 危害及びヒヤリ・ハット経験の原因（複数回答）Q29

⑧ 事故報告（複数回答）

事故報告に関しては、84.8%（403件）が「報告しなかった」であった。更に危害等の程度と事故報告の割合を図45に示した。その結果、「報告をしなかった」と回答した事例では、「ケガをしなかった」と「ただ通り抜けた」が9割以上を占め、危害の場合は報告を行っている傾向が強かった。

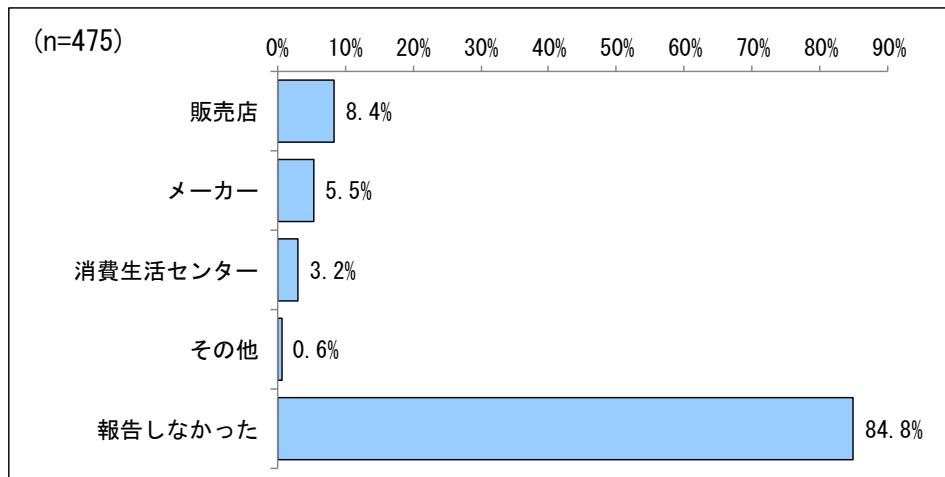


図40 事故報告（複数回答）Q31

なお、危害発生時の報告先は、「販売店」、「メーカー」、「消費生活センター」の順に報告件数が多かったが、危害等の程度との間に有意な差は見られなかった。

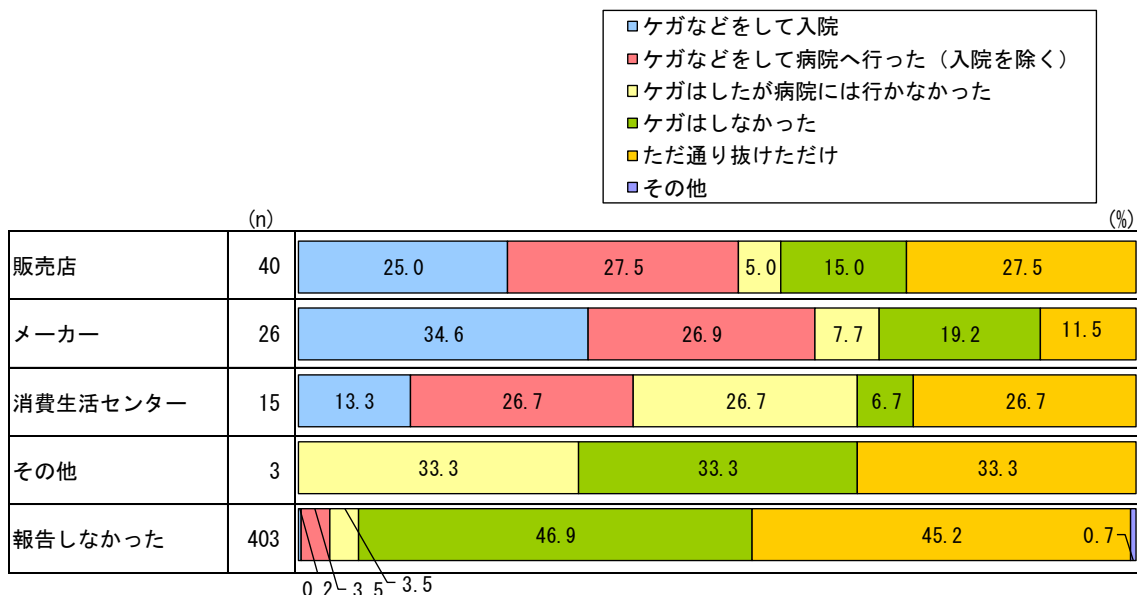


図41 ケガの程度と報告先の相関（複数回答）Q24 × Q31

⑨ 危害及びヒヤリ・ハット経験の詳細

得られた回答を、表4のように7つに分類した。

「外れた」については、子供自身がベビーゲート等に寄りかかったり、揺する事により、外れて倒れるケースが多く、また、ゲートの設置条件が悪く外れるケースも見られた。

「子供が開けた」については、子供の成長に伴い、子供が自分でロック機構を解除して開けてしまっていた。

「対象の子供以外の誰かが開けた」については、親、兄弟姉妹が開けてしまう、あるいは開けたままにして、対象の子供が通過してしまう事が多かった。

「ロックし忘れた・されなかった」については、ゲートに何か物が挟まっていてロックがかからなかったり、ゲートが完全に閉まった状態にならず、ロックが掛かっていなかったため、子供が通過していた。

「ぶつかった」は、対象の子供が走ってきてぶつかったり、対象の子供以外が扉を閉める時に、対象の子供がぶつかっていた。

「挟まれた」については、単純な指の挟まれや、開けたままのベビーゲートで子供が遊び、挟まれそうなケースがあった。

表4 危害及びヒヤリ・ハット経験の詳細 Q30

分類	具体的な事例
外れた	寄りかかるようにゲートの網の部分にもたれたので、外れてしまった。 (1歳、台所)
	子供の重さに耐えられずにゲートが外れて転んだ。 (2歳10か月、台所)
	自分でベビーゲートを開けようとしてガタガタ揺らしてはずしてしまっ た。 (1歳4か月、階段の上)
	ぐらつきやすい場所に設置してしまった (1歳1か月、リビング)
	子供がぐずってるときに無理やり開けようとして外れた (2歳1か月、階段の下)
	子供がのって倒れた (1歳2か月、台所)
	つっぱり棒タイプで固定していたが、使用しているうちに緩んで外れてし まった (1歳3か月、階段の上)
	柵に捕まり立ちをした時に柵ごと倒れた (1歳2か月、階段の上)

	<p>成長と共にゲートを揺さぶったり、開け閉めで扉が平行でなくなり、傾きと共にゲートが外れる。</p> <p>(1歳2か月、階段の上)</p>
	<p>片方の突っ張り方が悪くガタガタして外れてしまった</p> <p>(1歳2か月、台所)</p>
	<p>子供がベビーゲートをバンバン揺らして、ゲートが外れて取れた。その勢いで子供が転倒した。</p> <p>(2歳、台所)</p>
	<p>幅が足りてなくギリギリ大丈夫かと思っていたら、もたれかかったまま、すきまに足が挟まりそのままに倒れ込みました。</p> <p>(2歳1か月、階段の上)</p>
	<p>台所に子供が入りたくてゲートに寄りかかり転倒しました。</p> <p>(1歳2か月、台所)</p>
登った・ 乗り越えた	<p>柵を乗り越えて落下</p> <p>(1歳3か月、台所)</p>
	<p>少し目を離したすきに登っていた</p> <p>(1歳3か月、階段の下)</p>
	<p>母が台所にいる時に、ベビーゲートを乗り越えて入ってきたが特に被害はなかった</p> <p>(1歳10か月、台所)</p>
	<p>台所で柵にのぼり倒れた。怪我は無かった。</p> <p>(2歳4か月、台所)</p>
	<p>ゲートをよじ登ろうとして落ちた。</p> <p>(2歳6か月、電化製品の周り)</p>
子供が 開けた	<p>子どもが3歳のとき、自分で内側のロックのところに手を回し、ガチャッと開けて入った。</p> <p>(3歳、台所)</p>
	<p>おして開けてしまった</p> <p>(3歳2か月、階段の上)</p>
	<p>すぐロック機構お願いを覚えてしまいました</p> <p>(2歳1か月、玄関)</p>
	<p>子どもが自分で開けられるようになった</p> <p>(2歳、台所)</p>
	<p>一歳過ぎた頃、歩けるようになり階段下に設置していたベビーゲートに手をかけては自分で開けようとしている姿を見ることが多くなっていました。</p>

	(1歳8か月、階段の下)
対象の子供以外の誰かが開けた	ベビーゲートを開けたままに置いて、子どもがゲートを通り抜けようとした (1歳8か月、台所)
	兄弟の閉め忘れのためゲートを通り抜けた (1歳6か月、台所)
	すきまがすこし空いた状態で、子どもが手でおして出てきた (10か月、電化製品の周り)
	扉を閉めたつもりがしっかり閉まっておらず、子供が自力で開けて通り抜けていた (9か月、リビング)
ロックし忘れた・されなかった	上の子が開けた後、閉めたのだが、かませが甘く扉が半ロック状態になっていた。下の子が引っ張ったら扉が開き、通過してしまった。 (1歳3か月、階段の上)
	ゲートにタオルをかけていて、鍵をかけ忘れ子供が扉を開けてそのまま階段から落ちていきました。 (1歳、階段の上)
	ロックがとても頑丈で台所の行き来の際に毎回キッチンとロックしておらず、いつのまにか侵入されていた (8か月、台所)
ぶつかった	走ってぶつかった (1歳1か月、階段の上)
	上の子供が扉を閉めるときにぶつかった。 (1歳3か月、階段の下)
挟まれた	ベビーゲートにぶらさがり、足だけがゲートの隙間から向こう側に出ってしまった。 (10か月、台所)
	キッチンからリビングに行く間、ベビーゲートを開けたままにしたら子供がベビーゲートで遊んでしまい危うく挟まれそうになった (2歳6か月、台所)